

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|------------------|-------------|-------------|-------|-------|
| 科目名 (英) | インフォメーションテクノロジー (Information Technology) | 必修 選択 | 必修・選択必修 修・選択等 | 年次 | 1年 | 担当教員 | 小野寺幸子 |
| | | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | | | | | 曜日・時限 | |
| 教員の略歴 | 株式会社日立製作所で営業・インストラクターを経て、東北六県で企業、役所、自衛隊、専門学校、短大ほかでパソコンの研修を担当 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 社会に通用する仕事のツールとしてコンピュータは必須です。 Word、Excelの基本操作はもちろん、PowerPointでの発表の場も業種問わず増えています。スマホやタブレットの慣れからキーボードが使えない人がいる現状の中、パソコンの基礎が一番大事です。 簡単な案内文書からチラシやポスター作りへの応用、また企業プロジェクトに必要なExcelの表を自在に操作、編集できるようにする。Power Pointでは、スライドを思い通りに作成し、様々な場面で自分を表現できるように力をつけていく。 授業を通じて3つのアプリケーションの最低限の基礎をしっかりと使えるようになってほしい。 | | | | | | |
| 到達目標 | 10分間タイピング 400字以上入力できる 社会で通用するように基本的な文書作成が30分程度で作成できる Power Pointを使用して明確に自分の伝えたいことをスライドに表現ができ、発表できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験: Word40%(社外文書が50分以内で作成できるか評価) PowerPoint40%(与えられたテーマを盛り込みスライド7枚で表現できるか評価) 2) 態度・提出物: 20%(授業内での課題の取り組みで評価) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|-------|----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義・演習 | パソコンの使い方、Wordの基本操作、入力、文書の基本構成を理解 | タイピング練習問題課題① |
| 2 | / | 講義・演習 | 文書の効率の良い編集(オートフォーマット、書式設定) | |
| 3 | / | 講義・演習 | 便利な機能の使い方、基本文書の作成練習 | Word演習問題課題① |
| 4 | / | 講義・演習 | オブジェクト(ワードアート、クリップアート)を活用した文書作成① | |
| 5 | / | 講義・演習 | オブジェクト(SmartArt、図、図形)を活用した文書作成② | Word演習問題課題② |
| 6 | / | 講義・演習 | Excelの基本操作、数式、関数 | タイピング練習問題課題② |
| 7 | / | 講義・演習 | 体裁を整える(書式)、グラフ作成 | 10分間タイピングテスト |
| 8 | / | 講義・演習 | 練習問題、まとめ | |
| 9 | / | 講義・演習 | PowerPointの基本操作、作成、編集 | |
| 10 | / | 講義・演習 | スライドショー、オブジェクトの挿入 | |
| 11 | / | 講義・演習 | アニメーション、画面切り替えで表現する | |
| 12 | / | 講義・演習 | まとめとスライド作成の練習 | PowerPoint演習問題課題① |
| 13 | / | 講義・演習 | テーマ課題作成実習 | テーマ課題準備とWord演習問題③ |
| 14 | / | 講義 | 後期本試験 Wordでの文書作成テスト | |
| 15 | / | 講義 | PowerPointでの課題作成(発表)提出 | 10分間タイピングテスト |
| 16 | / | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 演習問題等で操作をマスターする。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 実教出版株式会社 ”ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2019” | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------|-------------|---------|------|------|
| 科目名 (英) | キャリアデザイン I () | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 阿部翔平 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 |
| 教員の略歴 | 大学卒業後、アドベンチャーワールド、アニマルカフェ、八木動物園で勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 学校での校内講義、および校外講義を実施し、職業人教育を通し、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。 また個人での取り組みや、グループでの取り組みを行い、主体性を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | 個人及びグループ内でお客様や展示を考慮し、ニーズに合わせた企画、発表ができる。 企業の取り組みについて、理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポート50%、取り組み状況・課題提出20%、出席30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義・演習 | ○サポートアンケート・傾聴・安心安全なクラスづくりのために・挨拶、時間管理、整理整頓・サポートアンケート | 授業内容の予習・復習 |
| 2 | / | 講義・演習 | ○ITリテラシーテスト・傾聴・挨拶、時間管理、整理整頓・教務自己紹介・ITリテラシーテスト | 授業内容の予習・復習 |
| 3 | / | 講義・演習 | ○映像鑑賞・傾聴・挨拶、時間管理、整理整頓・SOSを出すことについて・植松努氏動画(TED) | 授業内容の予習・復習 |
| 4 | / | 講義・演習 | ○ネットリテラシー・傾聴・安心安全なクラスづくりのために・ネットリテラシーといじめ | 授業内容の予習・復習 |
| 5 | / | 講義・演習 | ○自己紹介・傾聴・安心安全なクラスづくりのために・自己紹介 | 授業内容の予習・復習 |
| 6 | / | 講義・演習 | ○グループで協力するということ・傾聴・安心安全なクラスづくりのために・動画鑑賞 | 授業内容の予習・復習 |
| 7 | / | 講義・演習 | 学祭準備 | 授業内容の予習・復習 |
| 8 | / | 講義・演習 | ○グループワークについて・傾聴・安心安全なクラスづくりのために・グループワークのやり方について | 授業内容の予習・復習 |
| 9 | / | 講義・演習 | ○グループワーク実践・グループワーク実践 | 授業内容の予習・復習 |
| 10 | / | 講義・演習 | ○独自アンケート・独自アンケート | 授業内容の予習・復習 |
| 11 | / | 講義・演習 | ○夏休み前HR・出席率の確認・単位についての説明・生活リズムを崩さないように・この夏にしかできないことをしてみる | 授業内容の予習・復習 |
| 12 | / | 講義・演習 | ○グループワーク・傾聴・安心安全なクラスづくりのために・グループワーク | 授業内容の予習・復習 |
| 13 | / | 講義・演習 | ○映像鑑賞・動画を見て話し合う | 授業内容の予習・復習 |
| 14 | / | 講義・演習 | ○映像鑑賞・動画を見て話し合う | 授業内容の予習・復習 |
| 15 | / | 講義・演習 | ○人との関わりについて | 授業内容の予習・復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|------------------------|----------|-----------------|-------------|-----------|------|-------------------------------------|
| 科目名 (英) | ビジネスマナー I (Hospitality) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 岩田幹夫 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習 実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 曜日・時限 水曜日3限目 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、専門学校教員として勤務歴35年 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 就職活動の一連の流れ面接、指導、必要書類の書き方や、マナーやコミュニケーションを学び、社会人として必要なスキルとマインドを身につけ、就職活動をスムーズに行える力を身につけます。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 就職活動に関して必要なスキルを身につけることに重点を置き、学生が希望する社に内定をいただけることを目標とする。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)レポート60% 2)授業内評価40% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|--------------------------|-----------------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | キャリアセンターの役割について学習する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 2 | ／ | 演習 | 就職活動の流れについて学習する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 3 | ／ | 演習 | 自己分析・目的意識の明確化について実践する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 4 | ／ | 演習 | 求人票・サクセスナビの見方について学習する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 5 | ／ | 演習 | インターンシップ(業界研修)について | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 6 | ／ | 演習 | 履歴書の書き方、記入例について学習し実践する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 7 | ／ | 演習 | 志望動機のポイントについて学習する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 8 | ／ | 演習 | 封筒の宛名の書き方の注意ポイントについて学習する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 9 | ／ | 演習 | 筆記試験の種類と対策について学習する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 10 | ／ | 演習 | 面接の受け方について実践する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 11 | ／ | 演習 | PRポイントの確認について学習する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 12 | ／ | 演習 | 面接でよく出る質問について学習と実践をする | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 13 | ／ | 演習 | 敬語について学習する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 14 | ／ | 演習 | 添え状・挨拶状、お礼状について、理解し実践する | SUCCESS NOTEを予習 | |
| 15 | ／ | 演習 | 就活について、まとめ | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 就職活動に必要なスキルを身につける | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| SUCCESS NOTE | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|-----------------|-----------|-------------|-----------|---------------|
| 科目名 (英) | エコロジー概論・動物関連法規 (Introduction to eEcology・Related Laws and Regulation) | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択 等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高山 清次 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 世界の環境問題 生物の減少 森林の減少 海洋汚染 地球温暖化 暮らしとエネルギー 生活とゴミ 食生活 動物園と水族館の環境 動物病院とペットショップ 牧場と山里 | | | | | | |
| 到達目標 | 日常的に自然と環境に対して配慮できるようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験:100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------|----|-----------------------------------|---|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 世界の環境問題に関して理解できる 野生生物の減少について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 森林の減少 熱帯林の減少について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 海洋汚染 大切な海について 青い星がにごり始めた原因を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 暮らしとエネルギー・食生活・ 生活とゴミについて理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 動物園と水族館の環境スーストック計画 牧場・山里の環境について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | すべては自分とつながっており、環境問題は 他人事ではないことを理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | / | 講義 | 法について学ぶ意義を知る | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 家畜衛生法関連・感染症法・ 狂犬病予防について理解する。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 愛護と管理の法について理解する。① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 愛護と管理の法について理解する。② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 外来法について理解する。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 鳥獣保護法について理解する。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 「次世代のための環境教育 株式会社滋慶出版」 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | アニマルヒストリー・アニマルベーシック | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1年 | 担当教員 | 高山清次 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | <p><アニマルベーシック>動物に関する勉強をする場合の生物学的基礎知識を理解することを目的としている。</p> <p><アニマルヒストリー>動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <p><アニマルベーシック>この科目を受講した学生が、基礎生物学の知識を身につけることにより、動物業界で活躍する人材になることを目標としている。</p> <p><アニマルヒストリー>この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。</p> | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|----|------|--|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒・滅菌を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | スノーノシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムを説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 動物の進化とゲノムDNAの進化を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる基としての倫理を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | ペットビジネスの種類を説明できる。環境を守る観察と観光について知識を深める。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 動物介在療法(AAT)と動物介在活動(AAA)、動物が犬に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスを説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 牧羊犬、警察犬、救助犬身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | BSE問題、鳥インフルエンザ、日本の食料自給率、動物愛護問題を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 「ECO業界で役立つ基礎生物 株式会社滋慶出版」「動物年表で知るアニマルヒストリー 株式会社滋慶出版」 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|-------------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 動物人間関係学 (Study of Human-Animal Bond) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 横山昌美 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後ドッグスクール勤務、動物病院勤務(臨床経験13年) | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係をと心理学的及び社会的側面から、その実態、課題等を含め理解する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 人と動物とのふれあい活動(CAPP)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 人と動物とのふれあい活動(CAPP)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 動物介在活動(AAA)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 動物介在活動(AAA)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 動物介在療法(AAT)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 動物介在療法(AAT)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 動物介在教育(AAE)を理解する | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 動物介在教育(AAE)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 動物介在教育(AAE)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 人と動物との絆(HAB)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 人と動物との絆(HAB)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 人と動物との絆(HAB)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 人と動物との絆(HAB)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|------------------------|----------|-----------------|-------------|-------------|------|------------------|
| 科目名 (英) | コンパニオンドッグ I () | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三田 舞 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 犬種、犬の歴史、犬とはどういう生き物かを学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 各犬種の特徴を知り、作出された用途を理解し犬を深く理解する。また、犬とはどのような生き物か、どう扱うかを学ぶ。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|------------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 犬種学・しつけの意義 | | |
| 2 | / | 講義 | 犬種学・遊びの重要性 | | |
| 3 | / | 講義 | 犬種学・リーダーシップ | | |
| 4 | / | 講義 | 犬種学・犬の五感 | | |
| 5 | / | 講義 | 犬種学・犬の本能1 | | |
| 6 | / | 講義 | 犬種学・犬の本能2 | | |
| 7 | / | 講義 | 犬種学・犬の攻撃性1 | | |
| 8 | / | 講義 | 犬種学・犬の攻撃性2 | | |
| 9 | / | 講義 | 犬種学・犬の攻撃性3 | | |
| 10 | / | 講義 | 犬種学・問題解決ディスカッション | | |
| 11 | / | 講義 | 犬種学・問題解決ディスカッション | | |
| 12 | / | 講義 | 犬種学 | | |
| 13 | / | 講義 | 犬種学 | | |
| 14 | / | 試験 | | | |
| 15 | / | 振り返り | 試験の答え合わせ・解説 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------------|-------------|-------------|------|------------------|
| 科目名 (英) | ドッグトレーニングⅡ () | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三田 舞 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 一年生で学習したトレーニング技術を使い学校犬外の犬の扱い方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | モデル犬のトレーニングを通して、計画的にトレーニングを行っていく事を学ぶ。また、飼い主さんとのコミュニケーションの取り方を学ぶ。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト80% 出席率20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|----------------|----|------|---------------------|------|-------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | ／ | 演習 | 担当犬決め半年のトレーニングプラン作成 | | | |
| 2 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 3 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 4 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 5 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 6 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 7 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 8 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 9 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 10 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 11 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 12 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 13 | ／ | 演習 | トレーニング | | | |
| 14 | ／ | 試験 | | | | |
| 15 | ／ | 振り返り | 後期に向けてのトレーニングプラン作 | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|------------------------|----------|-----------|-------------|-------------|------|-------------|
| 科目名 (英) | アニマル トレーニング I (Training of Animals) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 岡村裕美 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 通年 曜日・時間 |
| 教員の略歴 | 複数の動物園 水族館に勤務。飼育展示、調教、広報、ショーの運営進行などを経験。飼育技師資格有 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | ①動物展示に係わるうえで必須となってくる「動物の訓練」「パフォーマンス」を身につけるために必要となる。 ②動物の体の仕組み、飼育、動物園に携わる科目と深く関係する。 ③学生の皆様には、訓練の基礎やパフォーマンスを実施するうえで過去の事例や現在の状況なども学び基本から応用まで、出来るようになっていただきたい。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ・動物の習性を学び、それらにそった訓練が出来る。 ・人、動物の双方が事故や怪我なく調教、訓練できるように基礎を身につける。 ・過去の失敗経験を指南し、訓練や調教知識を養う。 ・人前にたつパフォーマンスを学習の中で繰り返し実施し、習慣づける。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験筆記 70% 実技試験 30% ～講義内容の理解力、実習を基にした実技力を評価～ | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------|----|---------|---------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義と実習 | 動物訓練の必要性と危険性が確認でき | 飼育ハンドブック読み返し |
| 2 | ／ | 講義と実習 | 現場における危機管理を理解できる | ノート復習 |
| 3 | ／ | 講義と実習 | 動物訓練における心構えと基礎を理解 | ノート復習及び実習の復習 |
| 4 | ／ | 講義と実習 | 訓練動物の学習理論について知る | 〃 |
| 5 | ／ | 講義と実習 | 動物からの攻撃について理解できる | 〃 |
| 6 | ／ | 講義と実習 | ターゲット訓練に用いる道具を理解作成で | 〃 |
| 7 | ／ | 講義と実習 | 猛禽訓練に用いる道具を理解作成でき | 〃 |
| 8 | ／ | 講義と実習 | 訓練方法の今昔について理解できる | 〃 |
| 9 | ／ | 講義と実習 | 現場での獣舎や訓練方法について理解でき | 〃 |
| 10 | ／ | 講義と実習 | 訓練や世話における道具の重要性を理解で | 〃 |
| 11 | ／ | 講義と実習 | 訓練に適した人材について理解できる | 〃 |
| 12 | ／ | 講義と実習 | 海外の動物訓練事情を知る | 実技テスト準備 |
| 13 | ／ | 講義と実技試験 | 前期まとめと実技テスト | 前期振り返りの復習及び試験準備 |
| 14 | ／ | 試験 | 記述テスト | |
| 15 | ／ | 解説 | 前期ふりかえり | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 改訂版 新 飼育ハンドブック(動物園編) | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|----------------------|----------|-----------------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | アニマルトレーニングⅡ () | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 佐藤美月 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、出張ドッグトレーニングBuddy DOG 主宰 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 飼い主とより密接に関わる職業に就く人が、犬・飼い主双方に寄り添ったしつけの知識・技術を身につけられるように、犬の生態や行動学をベースに現代に多い犬の悩みや犬が人間社会で暮らすための知識、カウンセリング能力を身につける。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・犬を理解する(生態・行動学) ・行動学をポジティブトレーニングへ応用する ・人と犬が共生する上で大切なことを理解する ・カウンセリングの大切さを学び、実践することが出来る | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)授業内の定期的な小テスト60%、レポート20%、出席率20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|--|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義・実技 | 犬と接するにあたり、大切なことを理解し、犬の特徴を見極めることができる | | |
| 2 | / | 講義・実技 | 犬のボディランゲージの観察ができる | | |
| 3 | / | 講義 | 犬の行動力、生態について説明できる | | |
| 4 | / | 講義 | 犬の学習理論とトレーニングを結び付けて考えることができる | | |
| 5 | / | 講義 | ポジティブトレーニングについて理解することができる | | |
| 6 | / | 講義 | 家庭犬にオビディエンスが必要な理由を理解し、トレーニングに入るまでの | | |
| 7 | / | 実技 | ポジティブトレーニングを使用したオビディエンスが実践できる | | |
| 8 | / | 講義・実技 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭犬に必要なマナーの知識 ・ポジティブトレーニングを使用したオビディエンス | | |
| 9 | / | 講義・実技 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭犬に必要なマナーの知識 ・ポジティブトレーニングを使用したオビディエンス | | |
| 10 | / | 講義・実技 | ・現代に多い犬の悩みを理解する | | |
| 11 | / | 講義・実技 | ・現代に多い犬の悩みを理解する | | |
| 12 | / | 講義 | パピー期について理解する | | |
| 13 | / | 講義 | パピー期について理解する | | |
| 14 | / | 講義 | お悩み相談－カウンセリング技術を理解する | | |
| 15 | / | 講義 | 聞く力を身に付ける | | |
| 16 | / | 講義・実技 | カウンセリングを実践できる | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------|---|---|--|----------|-----------|-------------|---------|------|-------|
| 科目名 (英) | | 動物の健康管理 (Health Management of Animals) | | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | | | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | 競走馬牧場、乗馬クラブ、総合ペットショップ、移動動物園、NPO法人生態科学研究所副理事 | | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 身近な哺乳類について分類や品種、習性や体の特徴などを知ることで正常な状態なのかを知り適正飼育ができるように学ぶ またその動物の病気や飼育環境についても学び飼育に生かす | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 動物について学び適正飼育ができるようになる 動物たちについて理解しようとする、努力ができる 正常を知って異常に早く気づき、適切に報告や対応、検証ができるようになる | | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価: 40% 定期試験: 60% | | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|--------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 飼養管理に対する責任について理解する | ノート整理とまとめ |
| 2 | / | // | モルモットについて理解できる | // |
| 3 | / | // | モルモットの管理、デグーについて理解できる | // |
| 4 | / | // | デグーの管理、チンチラについて理解できる | // |
| 5 | / | // | チンチラの管理、ウサギについて理解できる | // |
| 6 | / | // | ワサギの管理、リス科動物について理解できる | // |
| 7 | / | // | プレーリードッグとシリスについて理解できる | // |
| 8 | / | // | プレーリードッグとシリスの管理について理解できる | // |
| 9 | / | // | シマリスについて理解し管理できる | // |
| 10 | / | // | ハムスターについて理解し管理できる | // |
| 11 | / | // | ハリネズミについて理解し管理できる | // |
| 12 | / | // | フェレットについて理解し管理できる | // |
| 13 | / | // | フクロモモンガについて理解し管理できる | // |
| 14 | / | // | テスト | // |
| 15 | / | // | まとめ | // |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 栄養学 (Animal Nutrition) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選 択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木 莉紗 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期・後期・通年・ 集中等 |
| 教員の略歴 | 専門学校卒業後、動物病院に動物看護師として勤務。愛玩動物看護師。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 5大栄養素やその代謝など基礎栄養素を学ぶとともに、ライフステージや疾患ことの違い、各種療法食の特色や給餌方法を取得する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 動物業務に必要な栄養学の知識を習得する。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業内評価:20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 栄養と栄養素について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 2 | / | 講義 | 5大栄養素(タンパク質)について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 3 | / | 講義 | 5大栄養素(炭水化物)について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 4 | / | 講義 | 5大栄養素(脂質)について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 5 | / | 講義 | 5大栄養素(ビタミン)について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 6 | / | 講義 | 5大栄養素(ミネラル)について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 7 | / | 講義 | 水、エネルギーについて理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 8 | / | 講義 | 食性、嗜好、摂食行動について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 9 | / | 講義 | 与えてはいけないものについて理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 10 | / | 講義 | ペットフードについて理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 11 | / | 講義 | 栄養状態の評価法について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 12 | / | 講義 | 栄養要求量、栄養管理について理解する | 講義範囲を予習・復習する |
| 13 | / | 講義 | 授業の復習とまとめ | 講義範囲を予習・復習する |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | 試験後の見直し |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|-----------|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 動物の体のしくみ (Anatomy and Physiology of Animals) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 石田義成 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義、演 習 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 農学博士、環境省(財)環境科学総合研究所にて高濃度のCO2および農業が生物に及ぼす影響について研究。海外での環境保全・野生動物保護活動を行う(アルゼンチン国立ラプラタ大学にてラプラタ川の生物調査、カンボジアのメコン川およびボルネオのキナバタンガン川に生息するカワイルカの調査と保護活動)。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物園など動物飼育の仕事において、専門知識や技術をもつ人材を養成するだけでなく、根底にある動物達の解剖学的・生理学的要因を学ぶ。動物の体のしくみについての基礎的知識を習得し、これから実施していく動物園などでの業界研修のときに必要とする知識を習得することを目的とする | | | | | | |
| 到達目標 | 受講者は、この授業を履修することによって、動物を仕事で扱う際に何か問題が起きたとき、その動物がなぜそのようなになっているのか？ その問題の根底にある原因を考えられるようになることを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験40%、出席60% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|---------------------------------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 【骨格系1】 骨格の構造と機能を理解する。 | | |
| 2 | / | 講義 | 【骨格系2】 Caイオンと骨の関係を理解する。 | | |
| 3 | / | 講義 | 【骨格系3】 動物たちの行動と骨格のしくみの関係を理解する。 | | |
| 4 | / | 講義 | 【循環器系1】 心臓構造と血液循環について理解する。 | | |
| 5 | / | 講義 | 【循環器系2】 循環系の検査方法(心拍数・血圧・心電図)について理解する。 | | |
| 6 | / | 講義 | 【中枢神経系】 脳の役割と検査方法(脳波)について理解する。 | | |
| 7 | / | 講義 | 【視覚1】 眼の構造と機能について理解する。 | | |
| 8 | / | 講義 | 【視覚2】 色覚のしくみについて理解する。 | | |
| 9 | / | 講義 | 【視覚3】 動物たちの行動と色覚との関係を理解する。 | | |
| 10 | / | 講義 | 【視覚4】 眼以外の視覚(松果体・赤外線感知) | | |
| 11 | / | 講義 | 【聴覚1】 動物の聴覚のしくみを理解する。 | | |
| 12 | / | 講義 | 【聴覚2】 動物のエコ-ロケーションのしくみを理解する。 | | |
| 13 | / | 講義 | 【嗅覚】 動物の聴覚のしくみを理解する。 | | |
| 14 | / | 講義 | 【味覚】 動物の味覚のしくみを理解する。 | | |
| 15 | / | 講義 | 【総括授業】 総括授業を行う。 | | レポート課題 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------------------|--|----------|-----------|-------------|---------|------|-------|
| 科目名 アニマルケア (英) (Animal Care) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | 競走馬牧場、乗馬クラブ、総合ペットショップ、移動動物園、NPO法人生態科学研究所副理事 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 動物飼育の仕事に従事するにあたって必要な知識や、動物たちに対しての正しい取り扱いについて学ぶ 動物たちの生命に対して責任をもってお世話ができ、適正な扱いや考え方を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・動物たちの適正管理ができる ・動物たちに対して丁寧で愛情を持った扱いや考え方ができる ・観察力を身につける | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価: 40% 定期試験: 60% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|------------------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 動物の適正管理について理解できる | | ノート整理とまとめ |
| 2 | / | 〃 | 観察方法と記録方法について理解できる | | 〃 |
| 3 | / | 〃 | 観察とまとめ方 | | 〃 |
| 4 | / | 〃 | 動物の行動管理について理解できる | | 〃 |
| 5 | / | 〃 | 適正な行動をするために必要なことが理解できる | | 〃 |
| 6 | / | 〃 | 動物福祉とエンリッチメント | | 〃 |
| 7 | / | 〃 | エンリッチメントと検証 | | 〃 |
| 8 | / | 〃 | トレーニング理論を知る | | 〃 |
| 9 | / | 〃 | トレーニング理論について理解できる | | 〃 |
| 10 | / | 〃 | 適正な食事管理について理解できる | | 〃 |
| 11 | / | 〃 | 草木類の主な種が同定できる(野生) | | 〃 |
| 12 | / | 〃 | 草木類の主な種が同定できる(牧草) | | 〃 |
| 13 | / | 〃 | 草木類の主な種が同定できる | | 〃 |
| 14 | / | 〃 | テスト | | 〃 |
| 15 | / | 〃 | まとめ | | 〃 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|----------|-------------|---------|------|-------------|
| 科目名 (英) | ドルフィントレーニング (Dolphin Training) | | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 渋谷睦美 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 1996年4月～2001年10月まであわしまマリンパークに所属し、飼育、ショーやプログラムなどのエデュケイト企画開発・実施、スタッフ教育を行う。2003年からは専門学校において講師を行い現在に至る。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物のトレーニングの背景にある原理と基本法則を学び、これを活用し実際にトレーニングを行う方法を身に付け、説明をする事が出来る。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・海洋哺乳類の収集方法から初期トレーニングを理解、説明する事が出来る。 ・生物の行動の種類を理解、説明する事が出来る。 ・生物の行動の種類・学習の原理/基本法則を知り、説明する事が出来る。 ・古典的条件づけとオペラント条件づけの区別ができ、説明する事が出来る。 ・シェイピングを行う注意点を考慮し、トレーニング(人)を行う事ができ、説明する事が出来る。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(0%) 3. レポート(0%) 4. 課題成果(0%) 5. 実地試験(0%) <p style="text-align: center;">以上の割合で後期評価とします。</p> | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|--|----|-------|--------------------------------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | オリエンテーション 授業目標と授業内容を理解する | | |
| 2 | ／ | 講義と演習 | 課題のトレーニング方法を文章で表現する事が出来る。 | | |
| 3 | ／ | 講義 | トレーニングの必要性について理解する事が出来る | | |
| 4 | ／ | 講義 | トレーニングの歴史を理解する事が出来る | | |
| 5 | ／ | 講義 | 動物全般の基本的行動の定義と特性について理解、説明する事が出来る | | |
| 6 | ／ | 講義 | 馴化の定義と特性について理解、説明する事が出来る | | |
| 7 | ／ | 講義 | オペラント条件付け① オペラント条件付けの定義を理解、説明する事が出来る | | |
| 8 | ／ | 講義 | オペラント条件付け② 強化の種類を理解、説明する事が出来る | | |
| 9 | ／ | 講義 | オペラント条件付け③ 罰の種類を理解、説明する事が出来る | | |
| 10 | ／ | 講義と演習 | オペラント条件付けの理解度を小テストで確認する | | |
| 11 | ／ | 講義 | 小テストをもとに重要な点を再確認する | | |
| 12 | ／ | 講義 | 強化子と弱化学子について理解、説明する事が出来る | | |
| 13 | ／ | 講義 | 強化子の種類について理解、説明する事が出来る | | |
| 14 | ／ | 試験 | 前期授業内容の理解度を筆記試験で確認する | | |
| 15 | ／ | 講義 | 筆記試験結果をもとに重要な点を再確認する | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・4・5集 | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|--------|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 水生生物飼育環境管理 (Aquatic Animals and Plants Rearing) | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 朝比奈理一 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・実習等 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | アクアルーム内に設備された水槽設備器具を使用して、実際に生体を飼育しながら生体管理方法、取り扱い方法など必要なスキルを身につける。何度も繰り返し作業を行うことで確実なものとする。状況に合わせ判断・行動できるような能力を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体の取り扱い方、接し方を学び、長期飼育できる能力を身につける。 ・飼育器具などの設備を適切に利用し、生体に適した環境を作りあげることができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験60% / 出席率40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|---|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 飼育生体・設備の説明 | | |
| 2 | / | 実習と講義 | 淡水魚、海水魚の世界について | | |
| 3 | / | 実習と講義 | 水生生物(淡水)の飼育管理について | | |
| 4 | / | 実習と講義 | 方法と飼育環境について | | |
| 5 | / | 実習と講義 | 水質について(検査方法) | | |
| 6 | / | 実習と講義 | 水槽管理の実践 ※作業前の準備、作業内容の組み立て ※生体の健康観察と健康チェックの仕方 ※水槽の飼育水の用意と交換方法について | | |
| 7 | / | 実習と講義 | | | |
| 8 | / | 実習と講義 | | | |
| 9 | / | 実習と講義 | | | |
| 10 | / | 実習と講義 | | | |
| 11 | / | 実習と講義 | | | |
| 12 | / | 実習と講義 | | | |
| 13 | / | 実習と講義 | | | |
| 14 | / | 講義 | 筆記テスト | | |
| 15 | / | 講義 | テストの答え合わせ、ふりかえり | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|---|-----------------------|-------------|---------|---------------------|
| 科目名 (英) | 魚類研究 (Fish Biology) | 年次 | 1 | 担当教員 | 岡村洋市 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 2年制 I 部 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 前期 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者 | | | | |
| 授業の学習内容 | 水圏(海洋域・陸水域)にひろく分布する魚類の形態学、系統分類学、生態学を総論と各論で学び、間口の広い理解力を培う。 近年、従来の定説が覆される事例も多いので最新の調査研究結果も紹介しながら授業を進める。 | | | | |
| 到達目標 | ①魚類生物学的諸研究の最新事情を把握する。 ②分類学 リンネ式学名の成り立ち、運用について理解を深める。 ③系統学 分類上の発展的な位置を確認する。 ④産業・生態的に重要と考えられる分類群は特に取り上げて知見を得る。 | | | | |
| 評価方法と基準 | 記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 :理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価:受講姿勢、発言および出席率を評価) | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|----|-------|-------------------|------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 種名・学名・和名の分類を知る。 | | 配布資料巻末の「まとめ」を各自復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 命名規約、系統樹を知る。 | | 〃 |
| 3 | ／ | 講義 | 基礎的構造や名称を知る。 | | 〃 |
| 4 | ／ | 講義 | 体形の種類や体色を知る。 | | 〃 |
| 5 | ／ | 講義 | 浸透圧調整や鰓の機能を知る。 | | 〃 |
| 6 | ／ | 講義 | 側線や母川回帰について知る。 | | 〃 |
| 7 | ／ | 講義 | 現生円口類と大量絶滅の相関を知る。 | | 〃 |
| 8 | ／ | 講義 | 主な板鰓類の特徴を知る。 | | 〃 |
| 9 | ／ | 講義 | 現生レリック(遺存種)を知る。 | | 〃 |
| 10 | ／ | 講義 | 原始的な条鰭類を知る。 | | 〃 |
| 11 | ／ | 講義 | 現生硬骨魚類を知る。 | | 〃 |
| 12 | ／ | 講義 | 〃 | | 〃 |
| 13 | ／ | 講義 | 各巻末資料の「まとめ」を解説する。 | | |
| 14 | ／ | 試験 | 記述テスト | | |
| 15 | ／ | 講義 | 試験結果の質疑・回答および解説 | | |
| 16 | ／ | | | | |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|--------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 水生無脊椎動物研究 () | 必修 選択 | 必修(選択必修・選択等) | 年次 | 1 | 担当教員 | 岡村淳市 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 民間、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 専門書、水産系教科書などを用いた講義。一部、標本資料や映像などを使用する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 水圏(海洋域・陸水域)に広く分布する魚類以外の水生生物や植物の形態学、系統分類学、生態学を総論と各論で学び、間口の広い理解力を培う。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 記述試験60% 授業内評価40% (授業内容の理解度、解説・文章力を評価) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|-----------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 分類の基礎① 種名・学名・和名 | | ノートを確認する |
| 2 | ／ | 講義 | 分類の基礎② 命名規約・系統樹 | | ノートを確認する |
| 3 | ／ | 講義 | 原生生物・海綿動物の分類・生態 | | ノートを確認する |
| 4 | ／ | 講義 | 刺胞動物の分類・生態① | | ノートを確認する |
| 5 | ／ | 講義 | 刺胞動物の分類・生態② | | ノートを確認する |
| 6 | ／ | 講義 | 有櫛動物などの分類・生態 | | ノートを確認する |
| 7 | ／ | 講義 | 軟体動物の分類・生態 | | ノートを確認する |
| 8 | ／ | 講義 | 環形動物の分類・生態 | | ノートを確認する |
| 9 | ／ | 講義 | 棘皮動物の分類・生態 | | ノートを確認する |
| 10 | ／ | 講義 | 節足動物の分類・生態① | | ノートを確認する |
| 11 | ／ | 講義 | 節足動物の分類・生態② | | ノートを確認する |
| 12 | ／ | 講義 | 脊索動物の分類・生態 | | ノートを確認する |
| 13 | ／ | 講義 | まとめ | | |
| 14 | ／ | | 記述テスト | | |
| 15 | ／ | 講義 | まとめ | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|------------------------|----------|-----------------|-------------|----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | グルーミング演習 I () | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1年 | 担当教員 | 荒川淳子 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物病院でトリマーとして勤務。その後ペットショップで店長として勤務。現在はフリー。 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実際にモデル犬を使ってグルーミングを学ぶ。それにあたって、使用する道具の安全な使い方を学ぶ。また犬の扱いに慣れ、コントロールすることを学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・グルーミングが行えるようになる ・グルーミングで使用する道具を安全に使い、使用することに慣れる ・クリッピングの安全な使い方をマスターする | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト60%、平常点40% (授業外学習をしている学生は、授業で差が明確なので、学習課題点として含む) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|---|--------------------------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 2 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 3 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 4 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 5 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 6 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 7 | ／ | 演習 | 中間試験 グルーミングを実践できる | おおよそ2.5～3hでグルーミングを終える | |
| 8 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる | おおよそ2.5～3hでグルーミングを終える | |
| 9 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、犬を安全に扱うことができる、バリカンを安全に使うことができる | | |
| 10 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 11 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 12 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 13 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 14 | ／ | 演習 | 試験 | 目標 開始から下準備1h以内、フロアまで2h以内 | |
| 15 | ／ | 演習 | 試験 | 目標 開始から下準備1h以内、フロアまで2h以内 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | ネット等でグルーミング動画を観て、犬の扱いやカットのイメージをつかんでおく。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------------|-------------|----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | グルーミング演習Ⅱ () | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1年 | 担当教員 | 三浦 悦子 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～トリマーとしてペットショップ勤務を経て自営 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実際にモデル犬を使ってグルーミングを学ぶ。それにあたって、使用する道具の安全な使い方を学ぶ。また犬の扱いに慣れ、コントロールすることを学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・グルーミングが行えるようになる ・グルーミングで使用する道具を安全に使い、使用することに慣れる ・クリッピングの安全な使い方をマスターする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト60%、平常点40% (授業外学習をしている学生は、授業で差が明確なので、学習課題点として含む) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|--|--------------------------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 2 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 3 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 4 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 5 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 6 | ／ | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 7 | ／ | 演習 | 中間試験 グルーミングを実践できる | おおよそ2.5～3hでグルーミングを終える | |
| 8 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる | おおよそ2.5～3hでグルーミングを終える | |
| 9 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、犬を安全に扱うことができる、バリカンを安全に使うことができ | | |
| 10 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 11 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 12 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 13 | ／ | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 14 | ／ | 演習 | 試験 | 目標 開始から下準備1h以内、フロアまで2h以内 | |
| 15 | ／ | 演習 | 試験 | 目標 開始から下準備1h以内、フロアまで2h以内 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | ネット等でグルーミング動画を観て、犬の扱いやカットのイメージをつかんでおく。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | グルーミング演習Ⅲ () | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1年 | 担当教員 | 荒川淳子 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物病院でトリマーとして勤務。その後ペットショップで店長として勤務。現在はフリー。 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実際にモデル犬を使ってグルーミングを学ぶ。それにあたって、使用する道具の安全な使い方を学ぶ。また犬の扱いに慣れ、コントロールすることを学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・グルーミングが行えるようになる ・グルーミングで使用する道具を安全に使い、使用することに慣れる ・クリッピングの安全な使い方をマスターする | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト60%、平常点40% (授業外学習をしている学生は、授業で差が明確なので、学習課題点として含む) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|---|--------------------------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 2 | / | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 3 | / | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 4 | / | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 5 | / | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 6 | / | 演習 | 道具を正しく使うことができる、犬の扱いに慣れる | | |
| 7 | / | 演習 | 中間試験 グルーミングを実践できる | おおよそ2.5～3hでグルーミングを終える | |
| 8 | / | 演習 | グルーミングを実践できる | おおよそ2.5～3hでグルーミングを終える | |
| 9 | / | 演習 | グルーミングを実践できる、犬を安全に扱うことができる、バリカンを安全に使うことができる | | |
| 10 | / | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 11 | / | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 12 | / | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 13 | / | 演習 | グルーミングを実践できる、ハサミの動かし方、使い方がなる | | |
| 14 | / | 演習 | 試験 | 目標 開始から下準備1h以内、フロアまで2h以内 | |
| 15 | / | 演習 | 試験 | 目標 開始から下準備1h以内、フロアまで2h以内 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | ネット等でグルーミング動画を観て、犬の扱いやカットのイメージをつかんでおく。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------------|-------------|----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 動物看護演習 I () | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1年 | 担当教員 | 鈴木莉紗 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 認定動物看護師。動物病院にて動物看護師として勤務後、専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 犬猫を中心に、健康管理や予防法、主にみられる疾患について学ぶ。各検査に必要な手技や機器の使い方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬猫の健康管理や予防法、主な疾患の症状、検査法を理解する。各検査の目的や意義を理解し、正確に検査を行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80%、授業内評価20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|-----------------------|------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義・演習 | 犬猫の健康管理について | | 講義範囲の予習、復習 |
| 2 | ／ | 講義 | バイタルサインについて | | 講義範囲の予習、復習 |
| 3 | ／ | 講義 | [予防] ワクチンについて | | 講義範囲の予習、復習 |
| 4 | ／ | 講義 | [予防] フィラリアについて | | 講義範囲の予習、復習 |
| 5 | ／ | 講義 | [予防] 狂犬病について | | 講義範囲の予習、復習 |
| 6 | ／ | 講義 | [予防] 避妊去勢について | | 講義範囲の予習、復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 注射針・シリンジ等の取扱いについ て | | 講義範囲の予習、復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 調剤について | | 講義範囲の予習、復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 疼痛・疼痛管理について | | 講義範囲の予習、復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 痒みについて | | 講義範囲の予習、復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 嘔吐・吐出について | | 講義範囲の予習、復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 下痢について・検便について | | 講義範囲の予習、復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 下痢について・検便について | | 講義範囲の予習、復習 |
| 14 | ／ | 講義 | 試験 | | 試験範囲を勉強し、その後見直し |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | | 試験範囲を振り返り、理解を深める |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | ショップ演習 I (Shop Exercise) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三田 舞 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 土曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 5世帯に1世帯が犬をペットとして飼っている日本の現状において、本専攻学生が卒業後に果たす役割は業界のみならず、社会全体にとっても大きくなっている。そのスキルを最大限に生かすためには、飼い主の持つ「マインド」を理解し、専門知識と経験を飼い主や顧客に効率的・効果的に伝える方法を習得することが有効である。その力量を持つ業界を担う人材の育成のため、飼い主に伝える知識の習得と飼い主とのコミュニケーションスキル向上を目的とする。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 専門家としてのスキルを最大限いかすべく、以下の能力の形成を目標とする。 1) 飼い主が犬と暮らす上でもつ、疑問や問題に回答出来る知識力 2) 犬についての知識や経験を正確に伝えるコミュニケーション能力 3) 飼い主と犬を客観的に判断するための観察力 4) 自己のトレーニング能力を個別の案件に対応させる想像力 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|------------------|----|------|---|------|---------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 演習 | この講義の持つ役割と飼主の心理と愛犬との関係の見方、飼主への対応方法の基礎を学習す | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 演習 | 犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 演習 | 犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 演習 | それぞれの犬種の持つ特徴を理解し、飼い主が持つイメージとのギャップを理解する。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 演習 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 演習 | 飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 演習 | 犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 演習 | 犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。 | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 演習 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 演習 | 犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 演習 | 現在の保護活動についての現状を知ることができる | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 演習 | 現在の保護活動についての現状を知ることができる | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 筆記試験 | | 試験範囲を予習・復習する。 |
| 15 | / | 演習 | テスト結果の振り返りを行うことでこの授業の理解をさらに深める | | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| 必要に応じて随時参考資料等を使用 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|--------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物行動学 I (Science of Animal Behaviour) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 大竹静枝 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 金曜日2時限 |
| 教員の略歴 | 山形大学大学院理学研究科修士課程修了後、宮城県金華山の野生ニホンザル群の人付けに成功。南米コロンビアの新世界ザルの生態調査に従事。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 1)毎回の講義で1種の動物を取り上げ、写真、映像から形と行動の特徴を見つける 2)それを各自テーマに沿って、レポートにまとめ、出来映えを競う。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 1)動物観察の視点と、科学的発想を身につける。 2)専門用語を覚え、わかりやすい表現法を習得する。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ルーブリック評価を採用 1)レポート40% .2)授業態度30%, 3)出席数30% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|--|----|------|---------------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 1年講義オリエンテーション | | |
| 2 | | 講義 | 収斂進化によるジャングルの成功者を知る | | 連休課題 |
| 3 | | 講義 | 哺乳類の熱効率を学ぶ | | 前回の復習 |
| 4 | | 講義 | 哺乳類の寒冷地適応を学ぶ | | 前回の復習 |
| 5 | | 演習 | 動物園観察会 | | |
| 6 | | 演習 | 動物園観察会予備日 | | |
| 7 | | 講義 | 毛の機能と構造を覚える | | 前回の復習 |
| 8 | | 講義 | 授乳による繁殖の秘密を解き明かす | | 前回の復習 |
| 9 | | 講義 | 爬虫類の生き残り戦略を考える | | 前回の復習 |
| 10 | | 講義 | 動物園に学べプレゼンの基礎 | | 前回の復習 |
| 11 | | 講義 | 動物園に学べー行動観察の手法 | | 夏休み課題 |
| 12 | | 講義 | アニマル・トークー行で惹きつける | | 発表原稿の作成 |
| 13 | | 講義 | アニマル・トークー数値と用語の選び方 | | 発表原稿の作成 |
| 14 | | 演習 | 課題のまとめ | | |
| 15 | | 演習 | 課題のまとめ | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| 講義時は毎回、映像と資料を使用し、レポートを提出。そのため、映像デッキと、資料のコピーが必要 | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------------|-------------|---------|------|------|
| 科目名 (英) | 動物行動学 I | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1年生 | 担当教員 | 大竹静枝 |
| | (Science of Animal Behaviour I) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | 野生ニホンザルと南米の新世界ザルの調査に従事。宮城教育大学ほか動物専門学校での講師歴は33年に及ぶ。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 哺乳類の構造と機能を読み取る訓練を、徹底的に繰り返す。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 動物観察の基本と、進化的思考を身につける。 2) 専門用語を自在に扱えるようにする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ルーブリック評価を採用 1) レポート、テスト 40% 2) 授業態度 30% 3) 出席数 30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|-------------------|-------|--------|-----------------------|------|-------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 4月15日 | 講義 | コアラのお腹は何故出てる？ | | | | |
| 2 | 4月22日 | 講義 | 自己紹介レポート作成、哺乳類の適応 | | 前回の復習 | | |
| 3 | 5月13日 | 講義 | 自己紹介スピーチ、南米のチンパンジー | | 自己紹介スピーチ原稿 | | |
| 4 | 5月20日 | 講義 | 究極の省エネ戦略：ナマケモノ | | 前回の復習 | | |
| 5 | 5月27日 | 講義 | パンタナルのシャカアは水辺の狩りに特化した | | 前回の復習 | | |
| 6 | 6月3日 | 自習課題 | 進化論入門：ターワインの見たカラバゴス | | 進化論の理解 | | |
| 7 | 6月17日 | 動物園観察会 | 初めての観察会 | | | | |
| 8 | 6月24日 | 動物園観察会 | 良いお客様とは？ | | | | |
| 9 | 7月1日 | 講義 | ダーウィンの自然選択説とガの工業黒化 | | 進化論の理解 | | |
| 10 | 7月8日 | 講義 | クマの進化と、海洋への適応 | | 前回の復習 | | |
| 11 | 7月22日 | 講義 | 行動観察の基本：野生ニホンザルの生態調査 | | 前回の復習 | | |
| 12 | 9月2日 | 講義 | 哺乳類の大型化のエネルギー効率 | | 前回の復習 | | |
| 13 | 9月9日 | 講義 | 哺乳類の毛の構造と機能 | | 前回の復習 | | |
| 14 | 9月16日 | テスト | 前期の振り返り | | 前期総復習 | | |
| 15 | | 講義 | 解説 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | |
| 映像機器、ボード、資料コピーを使用 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|-------------|-----------|------|----------------|
| 科目名 (英) | トレーニング概論 I | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 南條 絵美 |
| | (Training I) | 授業 形態 | (講義・演習)実 習等 | 総時間 (単位) | 90 (6) | 開講区分 | 前期 土曜日 1・2限 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|-------|---------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 担当犬の理解 (実際に犬と接することにより、性格を読み取り犬具の装・脱着) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 2 | | 講義・演習 | 招呼(呼び戻し)を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 3 | | 講義・演習 | 誘惑がある状況での招呼を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 4 | | 講義・演習 | 脚側意識の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 5 | | 講義・演習 | 脚側行進の基礎を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 6 | | 講義・演習 | ハウスを教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 7 | | 講義・演習 | 伏臥を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 8 | | 講義・演習 | 脚側意識の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 9 | | 講義・演習 | 脚側行進の応用を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 10 | | 講義・演習 | 声符・視符を正しく使うことが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 11 | | 講義・演習 | JKC 家庭犬訓練試験の規定を理解する | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 12 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 13 | | 講義・演習 | JKC CD-1の規定を教えることが出来る | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 14 | | 試験 | 試験 (筆記試験) | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 15 | | 講義・演習 | 前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める | 学校飼育犬及び、担当犬の管理 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | トレーニング概論Ⅱ | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 三田舞 |
| | (Training II) | 授業 形態 | (講義・演習)実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 水曜日 2・3限 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|--|----|-------|-----------------------------------|------|-------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 2 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 3 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 4 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 5 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 6 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 7 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 8 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 9 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 10 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 11 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 12 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 13 | | 講義・演習 | 各家庭犬に合ったトレーニングができる | | 担当犬の管理 | |
| 14 | | 試験 | 試験 (筆記試験) | | 予習 | |
| 15 | | 講義・演習 | 前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める | | 担当犬の管理 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|------------|------|------|
| 科目名 (英) | トレーニング概論Ⅳ () | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 南條絵美 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | JKC公認訓練士、1999年～2003年警察犬大場訓練所勤務、動物系専門学校にてドッグトレーニングの非常勤講師を務める | | | | | | |
| 授業の学習内容 | クレートトレーニング(犬舎内でのマナーを教える) 服従心の強化(犬との遊び) 集中力の強化(アイコンタクト) | | | | | | |
| 到達目標 | 犬との遊びを入れながら飽きさせない様に自分で組み立てる訓練ができるようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業態度 60% 実技試験 40%をベースに理解度、工夫があるか、同じ失敗がないかなど総合的に評価する | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|-------------------|---------------------------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 注意事項の確認、犬との遊び | | |
| 2 | / | 演習 | 歩き方の姿勢、担当犬を決める | | |
| 3 | / | 演習 | 服従心の強化(犬との遊び) | | |
| 4 | / | 演習 | 集中力の強化(アイコンタクト) | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 5 | / | 演習 | 面停座、脚側停座(定位置を覚える) | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 6 | / | 演習 | 脚側停座からのアイコンタクト | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 7 | / | 演習 | 服従心の強化(待て) | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 8 | / | 演習 | 伏臥 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 9 | / | 演習 | 脚側行進(直進) | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 10 | / | 演習 | 脚側停座、アイコンタクト、脚側行進 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 11 | / | 演習 | 脚側行進(Uターン) | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 12 | / | 演習 | 脚側停座、アイコンタクト、脚側行進 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 13 | / | 演習 | クレートトレーニング | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 14 | / | 演習 | 伏臥 アイコンタクト | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく | |
| 15 | / | 演習 | 今までのまとめ 復習 | | |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|------------------------|----------|-----------------|-------------|-----------|---------------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物園研究 I (Zoological Garden Study I) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 阿部敏計 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 金曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 仙台八木山動物公園にて38年間勤務、副園長を務める | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼育技術者の育成 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、出席日数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|---------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 自己紹介、授業の進め方 | |
| 2 | | 講義 | (動物園の概要)を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 3 | | 講義 | VD(野生保護に生きる人々)を理解する | 感想文提出 |
| 4 | | 講義 | 動物園・水族館の目的を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 5 | | 講義 | 山台市立八木山動物園の仕事を理解する | レポート提出 |
| 6 | | 講義 | 山台市立八木山動物園の仕事を理解する | レポート提出 |
| 7 | | 講義 | 日動水の役目を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 8 | | 講義 | 国内法令、天然記念物を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 9 | | 講義 | 国際条約(ワシントン条約)を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 10 | | 講義 | (分類)種とは、分類体系を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 11 | | 講義 | (生理)感覚器官を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 12 | | 講義 | 繁殖を理解する | 飼育ハンドブック3 |
| 13 | | 講義 | VD(象 列車がやってきた)を理解する | 感想文 |
| 14 | | 試験 | 試験 | |
| 15 | | 講義 | まとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 飼育ハンドブック3 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|-------------|-------------|-----------|---------------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物園研究 I (Zoological Garden Study I) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 阿部敏計 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 金曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 仙台八木山動物公園にて38年間勤務、副園長を務める | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼育技術者の育成 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、出席日数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 日本の動物園が辿った歴史を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 講義 | 現代社会における動物園の役割を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | | 講義 | 動物園に関わる法律について記することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 講義 | 動物の分類表記を記することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 講義 | 種と亜種の違いを説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 講義 | 動物園の展示の工夫を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 講義 | 動物が感じるストレスの仕組みを説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 講義 | 動物のストレス軽減への取り組みを実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 講義 | 動物福祉の概念について説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 講義 | 動物福祉の概念について説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 講義 | 八木山動物園の動物管理を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 講義 | 八木山動物園の動物管理を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 講義 | 試験対策 | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | | 講義 | 振り返り、誤解答を説明できる | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 飼育ハンドブック3 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------|-------------|---------|------|-------------|
| 科目名 (英) | 動物園飼育論 (Zoo Animal Breeding) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 津嶋 一樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制)Ⅱ部 | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 仙台ECO2016年卒 その後「(株)東北サファリパーク」入社 2021年8月に本校講師就任 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 学校にて飼育している動物の管理や観察の方法を学び、飼育の知識・経験を養う | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校動物の基本的な管理、飼育ができる ・動物の健康状態を判断し、状況に合わせた対応ができる ・時間管理やコミュニケーション等を自ずと実践できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価:40% レポート:40% 小テスト:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|-------------------|---------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 学校動物の種類を理解できる | 復習・レポート | |
| 2 | / | 〃 | 動物飼育の注意点を理解できる | | 〃 |
| 3 | / | 〃 | 飼育の心構えを理解できる | | 〃 |
| 4 | / | 演習 | 飼育の流れを把握できる | | 〃 |
| 5 | / | 〃 | 協力して飼育できる | | 〃 |
| 6 | / | 〃 | コミュニケーション能力を発揮できる | | 〃 |
| 7 | / | 〃 | 時間管理ができる | | 〃 |
| 8 | / | 〃 | 動物観察ができる | | 〃 |
| 9 | / | 〃 | 周囲に気を配ることができる | | 〃 |
| 10 | / | 〃 | 計画を立てて飼育ができる | | 〃 |
| 11 | / | 〃 | 優先順位を理解できる | | 〃 |
| 12 | / | 〃 | 積極的にやるべきことに取り組める | | 〃 |
| 13 | / | 〃 | 小テスト | | 〃 |
| 14 | / | 〃 | まとめ | | 〃 |
| 15 | / | 〃 | 臨機応変な対応ができる | | 〃 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 | 畜産飼養 | 必修 選択 | 必修/選択必修 選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義/演習/ 実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 月曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 家畜化の歴史や人との関わりを理解し、適切な飼養管理ができ、適切な扱いを行えるようになるための知識、技術を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的な知識、技術を習得し、畜産動物の飼養管理に携わる時、適切な管理を行えるようになることを目標とする | | | | | | |
| 評価方法 と基準 | 筆記試験80% 授業態度、参加率20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|--------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 畜産動物とは何か知ることができる | 講義範囲の予習・復習する |
| 2 | | 講義 | 山羊の家畜化・原種について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 3 | | 講義 | 山羊の品種や習性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 4 | | 講義 | 山羊の行動や特性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 5 | | 講義 | 綿羊の家畜化・原種について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 6 | | 講義 | 綿羊の品種や習性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 7 | | 講義 | 綿羊の行動や特性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 8 | | 講義 | 山羊と綿羊の病気について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 9 | | 講義 | 豚の家畜化・原種について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 10 | | 講義 | 豚の品種や習性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 11 | | 講義 | 豚の行動や特性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 12 | | 講義 | 牛の家畜化・原種について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 13 | | 講義 | 牛の品種や習性について理解できる | 講義範囲の予習・復習する |
| 14 | | 試験 | 筆記試験 | 試験範囲を勉強し、試験後見直す |
| 15 | | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 必要に応じて随時参考資料等を使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------------|-------------|---------|------|-------------|
| 科目名 (英) | クラフトワーク I (craft work) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 渡辺尋志 |
| | | 授業 形態 | 実習等 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 木4, 5 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | 彫刻家、日本美術家連盟会員、福島県在京美術家協会会員、新制作協会会員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生き物に関わる人間にとって大切なことは観察することそして考えること。 何かを形にするためには対象物を観察し何故この形になったのかを考えること。 絵を描き、粘土や針金で形を作り出す時自分自身の制作物を客観的にとらえ間違いや過不足箇所を訂正できる。 興味があるものだけでなくすべての事柄に対して考えることの重要性を理解して欲しい。 また、そこに付随して生態や現在の問題点、それに対しての自分なりの解決策まで考察できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の名称を聞いただけでおおよその形を描くことができます。 ・鉛筆や色鉛筆など身近な画材の使用法を身につける。 ・ドライバー、ペンチ、鋸など基本の道具の使い方を覚える。 ・モノづくりをすることで中途半端な仕事や作業をせず良い仕上がりに向けて動くことができる。 ・ワークショップの課題として参加者にアドバイスできる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 授業態度40% 2) 作品提出40% 3) 作品評価20% ※授業に向き合う姿勢が素晴らしいと判断し、すべての作品を期限までに提出したものは作品評価が低い場合でもA評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-----------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 授業の流れとモノ作りについて | 自己紹介イラスト制作 |
| 2 | | 実習 | 動物イラスト制作 | 描く動物の生態学習 |
| 3 | | 実習 | 動物イラスト制作 | 色鉛筆着色方法の指導 |
| 4 | | 実習 | 動物イラスト制作 | 動物の身体の形の考え方 |
| 5 | | 実習 | アニマルメモキャッチャー制作 | 対象の生き物の形の捉え方 |
| 6 | | 実習 | アニマルメモキャッチャー制作 | ワークショップ課題としての技術獲得 |
| 7 | | 実習 | 動物イラスト「ありえない世界」 | 生き物の特徴と生態の利用 |
| 8 | | 実習 | 動物イラスト「ありえない世界」 | 物語の作成と文章表現 |
| 9 | | 実習 | 動物イラスト「ありえない世界」 | |
| 10 | | 実習 | 羊毛フェルトの動物制作 | 動物の形の考え方 |
| 11 | | 実習 | 羊毛フェルトの動物制作 | ワークショップ課題としての技術獲得 |
| 12 | | 実習 | 羊毛フェルトの動物制作 | |
| 13 | | 実習 | 動物の絵本制作 | 動物表現の拡充を図る |
| 14 | | 実習 | 動物の絵本制作 | コミュニケーション方法として獲得 |
| 15 | | 実習 | 動物の絵本制作 | ワークショップ課題としての技術獲得 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | クラフトワークⅡ | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択 等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 渡辺 尋志 |
| | (Craft work Ⅱ) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 後期 木曜日 3限 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | 1990年より彫刻家として独立、日本美術家連盟会員、新制作協会会員、 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生き物に関わる人間にとって大切なことは観察することそして考えること。何かを形にするためには対象物を観察し何故この形になったのかを考えることで辻褃の合ったものが出来上がります。絵を描き、粘土や針金で形を作り出す時自分自身の制作物を客観的にとらえ間違いや過不足箇所を的確に訂正できる勇気を養ってほしい。興味があるものだけでなくすべての事柄に対して考えることの重要性を理解して欲しい。また、そこに付随して生態や現在の問題点、それに対する自分なりの解決策まで考察できる力が付くことを目指したい。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の名称を聞いただけでおおよその形を描くことができます。 ・鉛筆や色鉛筆など身近な画材の使用法を身につける。 ・ドライバー、ペンチ、鋸など基本の道具の使い方を覚える。 ・モノづくりをすることで中途半端な仕事や作業をせず良い仕上がりに向けて動くことができる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)出席率40% 2)作品提出40% 3)作品評価20% ※出席率100パーセント及びすべての作品を期限までに提出したものは作品評価が低い場合でもA評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 2 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 3 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 4 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 5 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 6 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 7 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 8 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 9 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 10 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 11 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 12 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 13 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 14 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 15 | | 演習 | 解説版の制作ができる | 架空の動物施設を設立 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|------------------------------------|----------------------|----------|----|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 海洋哺乳類 (Marine Mammal Science) | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 藤田智子 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 畜産学科卒業後、千葉県鴨川シーワールド入社。海獣飼育員として勤務。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 海洋哺乳類の生理・生態について学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 水族館職員として飼育動物の健康管理を行えるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 60% 出席率、その他 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------|----|------|----------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | ガイダンス | テキスト・ノート確認 |
| 2 | / | 講義 | 海牛の種類、食性 | テキスト・ノート確認 |
| 3 | / | 講義 | 海牛の骨格、歯 | テキスト・ノート確認 |
| 4 | / | 講義 | 海牛の消化機能 | テキスト・ノート確認 |
| 5 | / | 講義 | 鯨の種類、分類 | テキスト・ノート確認 |
| 6 | / | 講義 | 鯨の食性 | テキスト・ノート確認 |
| 7 | / | 講義 | 鯨の体温調節 | テキスト・ノート確認 |
| 8 | / | 講義 | 鯨の消化管 | テキスト・ノート確認 |
| 9 | / | 講義 | 鯨の呼吸器 | テキスト・ノート確認 |
| 10 | / | 講義 | 鯨の骨格 | テキスト・ノート確認 |
| 11 | / | 講義 | 鯨の耳、超能力 | テキスト・ノート確認 |
| 12 | / | 講義 | 鯨の目 | テキスト・ノート確認 |
| 13 | / | 講義 | 鯨の種類別特徴 | |
| 14 | / | 講義 | 筆記試験 | |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 鯨類海産哺乳類学 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|------------------------|----------|-------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 水族館飼育演習 I (Practice of Aquatic Animal Management) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 松岡由莉 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 仙台うみの杜水族館パフォーマンスチームで8年勤務 イルカ・アシカ・猛禽・インコの飼育 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 校内外の動物施設で実際の飼育管理や施設管理について学ぶ。 見学実習や、業界で働かれている方の特別講義を通して”今”の水族館に関して理解を深める。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・見学実習(新江ノ島水族館・ドルフィンファンタジー伊東・鴨川シーワールド)で飼育、展示に関して見て学び、物事の”理由”を添えてレポートでまとめることができる ・実習前講義で学んだことをしっかり予習し、当日実践することができる(ポイントを抑え、イルカにサインを出す) ・実習、特別講義を通して自分の目指す水族館を探す | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 実習態度50%、レポート50% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|---------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月8日 | 演習 | 水族館(うみの杜)を2年生とコ ミュニケーションを取りながら見学 | |
| 2 | 5月8日 | 演習 | 水族館(うみの杜)を2年生とコミュ ニケーションを取りながら見学がで | |
| 3 | 5月8日 | 演習 | 水族館(うみの杜)を2年生とコミュ ニケーションを取りながら見学がで | |
| 4 | 5月8日 | 演習 | 水族館(うみの杜)を2年生とコミュ ニケーションを取りながら見学がで | |
| 5 | 5月15日 | 講義 | 見学実習でのメモを見ながら振り返 りシートの記入ができる | |
| 6 | 5月29日 | 講義 | 特別講義(桂浜水族館) 鰭脚類の飼育に関して | |
| 7 | 5月30日 | 講義 | 特別講義(桂浜水族館)の振り返り | |
| 8 | 5月29日 | 講義 | 実習前ガイダンス ルール・目的を 理解できる | |
| 9 | 6月19日 | 講義 | 実習前ガイダンス ルール・目的を 理解できる | |
| 10 | 6月26日 | 講義 | 実習前の最終確認 自分の目標を明確に説明できる | |
| 11 | 6月28日 | 演習 | 新江ノ島水族館で見学時1つは質問 をし、メモを取ることができる | |
| 12 | 6月28日 | 演習 | 新江ノ島水族館で見学時1つは質問を し、メモを取ることができる | |
| 13 | 6月28日 | 演習 | 新江ノ島水族館で見学時1つは質問を し、メモを取ることができる | |
| 14 | 6月28日 | 演習 | 新江ノ島水族館で見学時1つは質問を し、メモを取ることができる | |
| 15 | 6月28日 | 演習 | 新江ノ島水族館で見学時1つは質問を し、メモを取ることができる | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|------------------------|----------|-------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 水族館飼育演習 I (Practice of Aquatic Animal Management) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 松岡由莉 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 仙台うみの杜水族館パフォーマンスチームで8年勤務 イルカ・アシカ・猛禽・インコの飼育 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 校内外の動物施設で実際の飼育管理や施設管理について学ぶ。 見学実習や、業界で働かれている方の特別講義を通して”今”の水族館に関して理解を深める。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・見学実習(新江ノ島水族館・ドルフィンファンタジー伊東・鴨川シーワールド)で飼育、展示に関して見て学び、物事の”理由”を添えてレポートでまとめることができる ・実習前講義で学んだことをしっかり予習し、当日実践することができる(ポイントを抑え、イルカにサインを出す) ・実習、特別講義を通して自分の目指す水族館を探す | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 実習態度50%、レポート50% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 16 | 6月29日 | 演習 | 事前講義を聞いて予習したものが実践できる(ドルフィンファンタジー) | |
| 17 | 6月29日 | 演習 | 事前講義を聞いて予習したものが実践できる(ドルフィンファンタジー) | |
| 18 | 6月29日 | 演習 | 事前講義を聞いて予習したものが実践できる(ドルフィンファンタジー) | |
| 19 | 6月29日 | 演習 | 事前講義を聞いて予習したものが実践できる(ドルフィンファンタジー) | |
| 20 | 6月29日 | 演習 | 事前講義を聞いて予習したものが実践できる(ドルフィンファンタジー) | |
| 21 | 6月30日 | 演習 | 事前に決めた鴨川シーワールド見学 実習での目標を達成する | |
| 22 | 6月30日 | 演習 | 事前に決めた鴨川シーワールド見学 実習での目標を達成する | |
| 23 | 6月30日 | 演習 | 事前に決めた鴨川シーワールド見学 実習での目標を達成する | |
| 24 | 6月30日 | 演習 | 事前に決めた鴨川シーワールド見学 実習での目標を達成する | |
| 25 | 6月30日 | 演習 | 事前に決めた鴨川シーワールド見学 実習での目標を達成する | |
| 26 | 7月3日 | 講義 | レポートの書き方のポイントを押さえ、作成をすることができる | |
| 27 | 7月3日 | 講義 | レポートの書き方のポイントを押さえ、作成をすることができる | レポートを作成 |
| 28 | 7月10日 | 講義 | 見学実習の振り返り・反省 | |
| 29 | 8月21日 | 講義 | 特別講義(夫ら海水族館) イルカの繁殖について | |
| 30 | 9月11日 | 講義 | 前期の内容のまとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|------------------------|----------|----|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 鯨類基礎飼育管理 (Basics of whale breeding management) | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 渋谷陸美 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 1996年4月～2001年10月まであわしまマリンパークに所属し、飼育、ショーやプログラムなどのエデュケイト企画開発・実施、スタッフ教育を行う。2003年からは専門学校において講師を行い現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ドルフィントレーナーに必要な水族館と鯨類全般についての基礎知識を学び、実践に向けた準備を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・水族館の役割が説明できる。 ・生物の収集・輸送について説明ができる。 ・施設～水槽～について比較し、違いについて説明ができる。 ・餌料の選択基準から取り扱う上での注意点について説明ができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(0%) 3. レポート(0%) 4. 課題成果(0%) 5. 実地試験(0%) 以上の割合で前期評価とします。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|------|---------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | オリエンテーション 授業目標と授業内容を理解する | |
| 2 | / | 講義 | 日本の水族館の調査・分析をする | |
| 3 | / | 講義 | 調査・分析結果についての個別発表・情報共有・水族館の可能性について討議する | |
| 4 | / | 講義 | 水族館の定義、日本動物園水族館協会について修得する | |
| 5 | / | 講義 | 水族館の社会的役割の把握し、調査結果との関係づけと類別する | |
| 6 | / | 講義 | 鯨類の収集方法について修得する | |
| 7 | / | 講義 | 鯨類の収集方法の現状把握・今後の収集方法の討議する | |
| 8 | / | 講義 | 鯨類の輸送方法についての知識を修得する | |
| 9 | / | 講義 | 鯨類飼育のために必要な施設を理解する | |
| 10 | / | 講義 | 陸上プールでの鯨類飼育について理解する | |
| 11 | / | 講義 | 海面利用プールでの鯨類飼育について理解する | |
| 12 | / | 講義 | 餌料の選定基準についての知識を修得する | |
| 13 | / | 講義 | 餌料としての冷凍魚の活用についての知識を修得する | |
| 14 | / | 試験 | 前期授業内容の理解度を筆記試験で確認する | |
| 15 | / | 講義 | 筆記試験結果をもとに重要な点を再確認する | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|-----------------|-------------|----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | フィールドワーク I (Observation and Fieldwork) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・ 選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 浅岡 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習 等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 前期・後期・通年・ 集中等 |
| 教員の略歴 | 環境系NPO法人での自然環境再生活動、専門学校での教育活動およびその指導に携わる | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 校外学習を通して水生生物の生態や生物を取り巻く環境について学ぶ。 野外活動での危険性を知り、自然環境中を含む屋外での安全を意識したイベントを実行できる人材を目指す。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 野外活動での危険把握、安全管理の必要性を理解し、安全確保の上で活動することができるようになる。 水辺での各種活動に必要な道具類の名称と正しい使用法、その管理ができるようになる。 水生生物の最適な観察法や基礎的採捕法を習得することができるようになる。 水辺での各種体験活動において、水生生物の解説ができるようになる。 (こども向けイベント等でやさしい言葉で水生生物の解説ができるようになること) | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験 ← 100段階で判定する 取組状況 ← 毎回の演習への取り組み状況を2段階で判定する 提出物 ← 提出物を4項目(提出期日、正確さ、自律学習度、IT使用)で判定する 筆記試験で50%、取組状況と提出物を合わせて50%、の合計が評価点となる | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|-------|----------------------------|-----------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/13 | 講義 | 野外での安全管理・危険について説明できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 2 | 4/20 | 講義 | 海での危険・危険生物について説明できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 3 | 4/27 | 講義 | 河川での危険について説明できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 4 | 5/18 | 講義、演習 | タモを使用した基本的採捕法の説明ができる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 5 | 5/25 | 講義 | 微小生物を含む小型水生生物の解説ができる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 6 | 6/1 | 講義、演習 | 底生生物およびその採捕法について解説できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 7 | 6/1 | 講義、演習 | 底生生物およびその採捕法について解説できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 8 | 6/15 | 講義 | 採捕道具(釣り道具)について解説できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 9 | 6/22 | 講義 | 特定外来生物およびその駆除法について解説できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 10 | 6/29 | 講義、演習 | 群生回遊生物およびその採捕法について解説できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 11 | 6/29 | 講義、演習 | 群生回遊生物およびその採捕法について解説できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 12 | 7/6 | 講義、演習 | 湿地での活動について解説できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 13 | 7/18 | 講義、演習 | 干潟生物およびその観察について解説できる | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 14 | 7/20 | 講義 | 前期授業のまとめ | 左記学習内容について3時間以上の復習をする |
| 15-1 | 8/31 | 講義 | 筆記試験 | 前期学習内容について1.5時間以上の復習をしておく |
| 15-2 | 9/7 | 講義 | 振り返り | 試験で間違えた項目について計1.5時間以上の復習をする |
| 準備学習 時間外学習 | | | 授業内で使用するワークシートのノートへの転記がよい。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 演習時に必要なもの 一用箋ハサミ、フィールドノート、フィールドブーツ、フィールドハット、ユニフォーム、タオル、雨具、カメラ、デジタル水温計、釣り具一式 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----------|-------------|---------|---------------|--------|
| 科目名 (英) | 潜水士対策講座 (Diver/Diving Examination) | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 小野寺 猛也 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 | 前期 |
| 教員の略歴 | ダイビングショップ勤務、PADIコースディレクター、潜水士資格所持 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 潜水士の教科書、過去問を中心に分析して生徒全員にわかりやすい授業を心がける。過去の試験問題を参照して抜粋して効率よく学べるようにプリントを配布する等の工夫も取り入れる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 2022年 9月 26日に実施される潜水士の国家試験に合格する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------|------|------|------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/21 | 講義 | 潜水士問題集での講義 | 潜水業務について |
| 2 | 5/12 | 講義 | 潜水士問題集での講義 | 潜水業務について |
| 3 | 5/19 | 講義 | 潜水士問題集での講義 | 送気、潜降及び浮上について |
| 4 | 5/26 | 講義 | 潜水士問題集での講義 | 送気、潜降及び浮上について |
| 5 | 6/2 | 講義 | 潜水士問題集での講義 | 高気圧障害について |
| 6 | 6/16 | 講義 | 潜水士問題集での講義 | 高気圧障害について |
| 7 | 6/23 | 講義 | 潜水士問題集での講義 | 関係法令について |
| 8 | 6/30 | 講義 | 潜水士問題集での講義 | 関係法令について |
| 9 | 7/7 | 講義 | 過去問での復習 | 潜水業務について |
| 10 | 8/4 | 講義 | 過去問での復習 | 送気、潜降及び浮上について |
| 11 | 8/18 | 講義 | 過去問での復習 | 高気圧障害について |
| 12 | 8/25 | 講義 | 過去問での復習 | 関係法令について |
| 13 | 9/1 | 講義 | 過去問での復習 | 全体を通しての見直し |
| 14 | 9/8 | 講義 | 過去問での復習 | 全体を通しての見直し |
| 15 | 9/15 | 講義 | 過去問での復習 | 全体を通しての見直し |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 潜水士教科書、問題集、過去問プリント | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|----------|-------------|---------|---------------|--------|
| 科目名 (英) | スイムトレーニング I (Swimming Training I) | | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 小野寺 紘也 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 曜日・時限 | 前期 |
| 教員の略歴 | ダイビングショップ勤務、PADIコースディレクター、潜水士資格所持 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 自由型、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4つの泳法を学ぶことで水族館をはじめ海洋関係の仕事で活かせるスキルを身につける。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 全員が最低25mを4つの泳法で泳げるようになる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業態度や取り組み姿勢を基準として、その上で泳ぎの評価も前期、後期のテストを実施して評価する。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|---------|--------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 演習 | 自由型 | けのび、バタ足、息継ぎ、手足の使い方 |
| 2 | | 演習 | 平泳ぎ | けのび、バタ足、息継ぎ、手足の使い方 |
| 3 | | 演習 | 背泳ぎ | けのび、バタ足、息継ぎ、手足の使い方 |
| 4 | | 演習 | バタフライ | けのび、バタ足、息継ぎ、手足の使い方 |
| 5 | | 演習 | 自由型 | けのび、バタ足、息継ぎ、手足の使い方 |
| 6 | | 演習 | 平泳ぎ | けのび、バタ足、息継ぎ、手足の使い方 |
| 7 | | 演習 | 背泳ぎ | けのび、バタ足、息継ぎ、手足の使い方 |
| 8 | | 講義、演習 | ダイビング座学 | PADIオープンウォーター講習 |
| 9 | | 講義、演習 | ダイビング座学 | PADIオープンウォーター講習 |
| 10 | | 講義、演習 | ダイビング座学 | PADIオープンウォーター講習 |
| 11 | | 演習 | ダイビング講習 | PADIオープンウォーター講習 |
| 12 | | 演習 | ダイビング講習 | PADIオープンウォーター講習 |
| 13 | | 演習 | ダイビング講習 | PADIオープンウォーター講習 |
| 14 | | 演習 | バタフライ | けのび、バタ足、息継ぎ、手足の使い方 |
| 15 | | 演習 | 前期テスト | 自由型、平泳ぎ |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 水着、ゴーグル、ビート板 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|------------------------|----------|------------------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 観賞魚研究 I (Ornamental Fish I) | | 必修 選択 | 必修(選択必 修・選択等) | 年次 | 1 | 担当教員 | 浅岡 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 小型魚類・甲殻類の飼養管理、生体を含めた水槽の設置・貸出・維持管理をおこなう「さかなこねこ」代表 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 水生生物を飼育する上で必要な生体情報、環境情報について学ぶ。 特に、観賞魚を取り巻く現状(自然に生息する魚と観賞魚の関係、外来魚と観賞魚の関係など)につい て、生物多様性の観点からみる観賞用生物についての問題を学び、観賞魚のあるべき将来像につい て考える。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 観賞魚について、種類ごとの概要を解説できる 子どもたちにも理解できるやさしい言葉で解説することができる (特に東北における身近な観賞魚ともなる日本産淡水魚について解説できるようになる) | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験 ←100点満点で判定する 提出物(ポートフォリオ) ←提出物(ポートフォリオ)を4点満点で判定する 提出物(ワークシート) ←提出物(ワークシート)を3点満点で判定する 提出物(実技課題) ←提出物(実技課題)を2点満点で判定する (判定基準、評価における上記判定の割合については初回講義内で解説する) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|--|------|-------|--|------|--------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/13 | 講義 | 観賞魚について自分の知見の現状と経緯を自己 評価できる | | ポートフォリオ |
| 2 | 4/19 | 講義 | 飼育水について述べるができる | | 議論・ワークシート |
| 3 | 4/26 | 講義 | プランクトンについて説明することができる | | 議論・ワークシート |
| 4 | 5/10 | 講義・演習 | 微小甲殻類(ミジンコ)について説明するこ とができる | | ワークシート・実技課題 |
| 5 | 5/17 | 講義 | 身近な甲殻類について説明することができる | | 議論・ワークシート |
| 6 | 5/24 | 講義・演習 | 特定外来生物(甲殻類)について説明するこ とができる | | ワークシート・実技課題 |
| 7 | 5/31 | 講義 | 日本のメダカについて解説することができる | | 議論・ワークシート |
| 8 | 6/14 | 講義・演習 | 改良メダカに代表される生物研究に、五感が大 切なことを説明することができる | | ワークシート・実技課題 |
| 9 | 6/21 | 講義 | 改良メダカに代表される生物研究に、五感が大 切なことを説明することができる | | 議論・ワークシート |
| 10 | 6/28 | 講義 | 観賞魚問題(多様性と観賞魚)について述べる ことができる | | 議論・ワークシート |
| 11 | 7/5 | 講義・演習 | ドジョウ類について説明することができる | | ワークシート・実技課題 |
| 12 | 7/12 | 講義 | ドジョウ類について説明することができる | | 議論・ワークシート |
| 13 | 8/30 | 講義 | ドジョウ類の飼育管理のポイントについて述べる ことができる | | 議論・ワークシート |
| 14 | 9/6 | 試験 | 筆記試験 | | 前期学習内容について復習をしておく |
| 15 | 9/13 | 講義 | 振り返り | | 試験で間違った問題について復習をする |
| 準備学習 時間外学習 | | | 「はじめてのアクアリウム」等、アクアリウム初心者向け的一般書籍を読む | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 プリント、ワークシート、調整済み生体、各種生体、ルーペ(虫眼鏡)、 生物移送用容器(ペットボトル可)、タオル、水生生物飼育に関係する用具 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 水生生物飼育生体管理 | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 朝比奈 理一 |
| | Aquatic Animals and Plants Rearing | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | クアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | アクアarium内に設備された水槽設備器具を使用して、実際に生態を飼育しながら、生体管理方法・取り扱い方法など必要なスキルを身につける。何度も繰り返し作業を行うことで確実なものとする。状況に合わせて判断、行動できる能力を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生態の取り扱い方、接し方を学び長期飼育できる能力を身につける。 ・飼育器具などの設備のしくみを理解し、適切に運用できるようになる。 ・生体の飼育環境を一から作り上げ、それを維持する能力を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・試験 ・授業内評価 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|--|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 飼育生体、設備の説明 | | |
| 2 | / | 講義と演習 | 水生生物(淡水・海水)の世界について | | |
| 3 | / | 講義と演習 | <水槽管理方法と実践> 設備の使用方法、水槽内の清掃・点検ができる | | |
| 4 | / | 講義と演習 | <水槽管理方法と実践> 設備の使用方法、水槽内の清掃・点検ができる | | |
| 5 | / | 講義と演習 | <水槽管理方法と実践> 設備の使用方法、水槽内の清掃・点検ができる | | |
| 6 | / | 講義と演習 | <濾過槽設備の扱い方> ろ過材の洗浄・保管ができる | | |
| 7 | / | 講義と演習 | <濾過槽設備の扱い方> ろ過材の洗浄・保管ができる | | |
| 8 | / | 講義と演習 | <水槽管理の実践> 作業前の準備・作業内容の組み立てができる | | |
| 9 | / | 講義と演習 | <水槽管理の実践> 作業前の準備・作業内容の組み立てができる | | |
| 10 | / | 講義と演習 | <水槽管理の実践> 生体の健康を観察し、状態の判断ができ | | |
| 11 | / | 講義と演習 | <水槽管理の実践> 生体の健康を観察し、状態の判断ができ | | |
| 12 | / | 講義と演習 | <水槽管理の実践> 水質検査を行い、水の状態の良し悪しの判断、又改善案を考え実行できる | | |
| 13 | / | 講義と演習 | <水槽管理の実践> 水質検査を行い、水の状態の良し悪しの判断、又改善案を考え実行できる | | |
| 14 | / | 試験 | 筆記テスト | | |
| 15 | / | 講義 | テストの答え合わせ・振り返り | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|-------|----|
| 科目名 (英) | 進級制作 I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 阿部 |
| | (Promotion Study I) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | | | | | 曜日・時限 | |
| 教員の略歴 | 大学卒業後、南紀白浜アドベンチャーワールド、アニマルカフェ、八木山動物公園で飼育員として勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | グループごとに自らテーマを設定し、自主的に観察、調査を積み重ね、卒業制作展を主な目標として抄録やポスターの作成、口頭発表の準備を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 水族館や動物園、その他の動植物飼育施設では日々の飼育業務だけでなく、希少な動植物の保護および繁殖、飼育環境の改良、改善のために生態や行動をよく観察し、飼育方法や繁殖方法の確立、より良い飼育環境作りを目指すことも大切な仕事となっており、その重要性は年々高まってきている。その基礎となるのが「研究」という視点、思考であり、自分で調べ考えた事柄を客観的に他者に伝わる形にまとめ上げプレゼンテーションする力を身に付ける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 出席20%、その他80% (研究への取り組み方、目標への到達度、プレゼンテーションのクオリティ) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|----------------|----|-------|----------------------|------|---------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | ／ | 講義、演習 | イダンス(「研究とは?」)、調べるところ | | | | |
| 2 | ／ | 講義、演習 | ニュース記事を調べよう(コイン) | | 論文、書籍、インターネット | | |
| 3 | ／ | 講義、演習 | 発表 | | | | |
| 4 | ／ | 講義、演習 | サンプリングについて | | | | |
| 5 | ／ | 講義、演習 | フォーカルサンプリング | | アクアarium観察 | | |
| 6 | ／ | 講義、演習 | スキャンサンプリング | | アクアarium観察 | | |
| 7 | ／ | 講義、演習 | グループ内発表、テーマ決め | | | | |
| 8 | ／ | 講義、演習 | スケジュール、方法、仮説設定 | | | | |
| 9 | ／ | 講義、演習 | 中間発表① 仮テーマ発表 | | | | |
| 10 | ／ | 講義、演習 | 関連する小論文、ニュースなど調査 | | 論文、書籍、インターネット | | |
| 11 | ／ | 講義、演習 | 同上 | | 同上 | | |
| 12 | ／ | 講義、演習 | 同上 | | 同上 | | |
| 13 | ／ | 講義、演習 | 中間発表② 経過報告、テーマ再確認 | | | | |
| 14 | ／ | 講義、演習 | 関連する小論文、ニュースなど調査 | | 論文、書籍、インターネット | | |
| 15 | ／ | 講義、演習 | まとめ | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|---------------|------|
| 科目名 (英) | キャリアデザインⅡ () | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 阿部翔平 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 曜日・時限 | 通年 |
| 教員の略歴 | 大学卒業後、アドベンチャーワールド、アニマルカフェ、八木動物園で勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 学校での校内講義、および校外講義を実施し、職業人教育を通し、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。 また個人での取り組みや、グループでの取り組みを行い、主体性を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | 個人及びグループ内でお客様や展示を考慮し、ニーズに合わせた企画、発表ができる。 企業の取り組みについて、理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験30%、取り組み状況・課題提出20%、出席50% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|----------------|----|------|-----------------------------------|------|-------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | / | 演習 | 今後の飼育について (スパイダー討論) | | | | |
| 2 | / | 演習 | 自己分析、面接について | | | | |
| 3 | / | 演習 | 思考について(水平、垂直)、アイデア イベント | | | | |
| 4 | / | 演習 | 発表 (グループ内で個人が発表) | | | | |
| 5 | / | 演習 | コラボ商品について | | 各自課題 | | |
| 6 | / | 演習 | 発表 (グループ内で個人が発表) | | | | |
| 7 | / | 演習 | ブランドを意識したイベント考案 (各水族館を例に) | | 各自課題 | | |
| 8 | / | 演習 | 発表 | | | | |
| 9 | / | 演習 | あなたの考える水族館、コンセプトに ついて(グループワーク) | | | | |
| 10 | / | 演習 | 発表 | | | | |
| 11 | / | 演習 | コンセンサスゲーム(NASA) | | | | |
| 12 | / | 演習 | 水族館で飼育される 生き物の飼育方法について(鳥類、爬虫) | | | | |
| 13 | / | 演習 | 同上 | | | | |
| 14 | / | 演習 | まとめ | | | | |
| 15 | / | | テスト | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------------|-------------|-------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | トリミング演習 I (Practice of Trimming) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 三浦 悦子 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義(演習・実 習等) | 総時間 (単位) | 180 (12) | 開講区分 | 前期 木曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～トリマーとしてペットショップ勤務を経て自営 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来るようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト80% 2) 出席数20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|--------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 道具の使い方が理解できる | 講義範囲の復習をする |
| 2 | / | 演習 | 演習の仕方が理解できる | 演習範囲の復習をする |
| 3 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 4 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 5 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 6 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 7 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 8 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 9 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 10 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 11 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 12 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 13 | / | 演習 | グルーミングが実践できる | 演習範囲の予習・復習をする |
| 14 | / | 試験 | 演習範囲 | 演習範囲の予習・復習をする |
| 15 | / | 演習 | まとめ | 演習範囲を振り返る |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| グルーミングテキスト | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------------|-------------|-------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | トリミング演習 I (Practice of Trimming) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 三浦 悦子 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 180 (12) | 開講区分 | 後期 木曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～トリマーとしてペットショップ勤務を経て自営 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来るようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)定期テスト80% 2)出席数20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 講義範囲の復習をする |
| 2 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の復習をする |
| 3 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 4 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 5 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 6 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 7 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 8 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 9 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 10 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 11 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 12 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 13 | ／ | 演習 | ルーミング・トリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 14 | ／ | 試験 | 演習範囲 | 演習範囲の予習・復習をする |
| 15 | ／ | 演習 | まとめ | 演習範囲を振り返る |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| グルーミングテキスト | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|----------------------|----------|-----------------|-------------|-------------|------|----------------------|
| 科目名 (英) | トリミング演習Ⅱ (Practice of Trimming) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 三浦 悦子 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 180 (12) | 開講区分 | 前期 月曜日 1・2・3 限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～トリマーとしてペットショップ勤務を経て自営 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来るようになる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)定期テスト80% 2)出席数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 講義範囲の復習をする |
| 2 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の復習をする |
| 3 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 4 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 5 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 6 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 7 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 8 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 9 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 10 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 11 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 12 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 13 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 14 | ／ | 試験 | 演習範囲 | 演習範囲の予習・復習をする |
| 15 | ／ | 演習 | まとめ | 演習範囲を振り返る |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| グルーミングテキスト | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------------|-------------|-------------|------|----------------------|
| 科目名 (英) | トリミング演習Ⅱ (Practice of Trimming) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 三浦 悦子 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義(演習・実 習等) | 総時間 (単位) | 180 (12) | 開講区分 | 後期 月曜日 1・2・3 限 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～トリマーとしてペットショップ勤務を経て自営 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来るようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)定期テスト80% 2)出席数20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 講義範囲の復習をする |
| 2 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の復習をする |
| 3 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 4 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 5 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 6 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 7 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 8 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 9 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 10 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 11 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 12 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 13 | ／ | 演習 | 犬種にあったトリミングが実践でき | 演習範囲の予習・復習をする |
| 14 | ／ | 試験 | 演習範囲 | 演習範囲の予習・復習をする |
| 15 | ／ | 演習 | まとめ | 演習範囲を振り返る |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| グルーミングテキスト | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|----------------------|----------|-----------------|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | トリミング演習Ⅲ () | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2年 | 担当教員 | 荒川淳子 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 180 12 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物病院でトリマーとして勤務。その後ペットショップで店長として勤務。現在はフリー。 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実際にモデル犬を使って1年次に行ってきたグルーミングを復習し、トリミングの基礎を学ぶ。犬の扱いに慣れ、円滑なコントロールができることで、安全にトリミングが行えることを学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・グルーミングを時間内に行える ・犬のコントロールの仕方をできる限りマスターする ・クリッピング、シザーリングの安全な使い方をマスターする ・クリッピング、シザーリングによって、イメージ通りのカットが行える ・時間内にトリミングが行えるようになる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト60%、平常点40% (授業外学習をしている学生は、授業で差が明確なので、学習課題点として含む) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|------|--|---------------|---------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | グルーミングが実践できる、バリカンを円滑に行うことができる、ハサミを進めることができ | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 2 | / | 演習 | グルーミングが実践できる、バリカンを円滑に行うことができる、ハサミを進めることができ | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 3 | / | 演習 | グルーミングが実践できる、バリカンを円滑に行うことができる、ハサミを進めることができ | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 4 | / | 演習 | グルーミングが実践できる、バリカンを円滑に行うことができる、ハサミを進めることができ | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 5 | / | 演習 | グルーミングが実践できる、バリカンを円滑に行うことができる、ハサミを進めることができ | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 6 | / | 演習 | グルーミングが実践できる、バリカンを円滑に行うことができる、ハサミを進めることができ | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 7 | / | 演習 | 中間試験 | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 8 | / | 演習 | イメージしたハサミ使いができる 犬のコントロールが円滑に行える | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 9 | / | 演習 | イメージしたハサミ使いができる 犬のコントロールが円滑に行える | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 10 | / | 演習 | イメージしたハサミ使いができる 犬のコントロールが円滑に行える | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 11 | / | 演習 | イメージしたハサミ使いができる 犬のコントロールが円滑に行える | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 12 | / | 演習 | イメージしたハサミ使いができる 犬のコントロールが円滑に行える | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 13 | / | 演習 | イメージしたハサミ使いができる 犬のコントロールが円滑に行える | 目標 下準備1h、 | ブローまで1.5h、カット終了1.5h |
| 14 | / | 演習 | 試験 | 目標 開始から下準備45分 | ブローまで1.5h、カット終了3.5h |
| 15 | / | 演習 | 試験 | 目標 開始から下準備45分 | ブローまで1.5h、カット終了3.5h |
| 準備学習 時間外学習 | | | ネット等でグルーミング動画を観て、犬の扱いやカットのイメージをつかんでおく。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|-------------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | ショップ演習Ⅱ (Shop Exercise) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 水曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <p>業界への従事を目指す学生を対象とした、業界で働くための幅広い知識を修得する授業。業界は、必ず生き物に触れ合う仕事であるため、本授業では知識を増やす“講義”と、即戦力となるための経験値を高める“実習”のバランスを重視したカリキュラム構成となっている。生体管理の知識などは「科目：飼養管理」と関連する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問屋業の仕事を学ぶ ・学生は本授業で得た動物に関する幅広い知識と経験を基に、ショップスタッフや問屋へ就職後も即戦力として活躍できる人材に育てられることを望む。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に従事する職場での即戦力となるため、業界に対する基本知識を学ぶ。 ・業界において、問屋業の幅広い基礎知識と技術を習得する。 ・小売業の一部の基礎知識と技術を習得する。 ・小売店での生体管理方法を身につける。 ・餌の種類、成分、用途などの知識を学んだ後に、オリジナルの飼料を作製することで、より深い知識を身につける。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----|------|--------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | 業界の仕組みを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 演習 | 問屋の役割、存在意義を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 演習 | 問屋の業務を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 演習 | 問屋の生体管理の実践できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 演習 | 生体管理方法を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 演習 | 飼育室の生体管理方法を実践できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 演習 | 飼料の栄養素を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 演習 | 色揚メカニズムを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 演習 | 餌の原材料の特徴を説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 演習 | 餌を調合して製造することが出来る | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 演習 | 輸入の仕組みを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 演習 | 輸入の法律に関して説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 演習 | 前期で行ったことを説明できる | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 筆記テスト実施 | 試験範囲を予習・復習する。 |
| 15 | ／ | 演習 | テスト結果の振り返りを行うことでこの授業の理解をさらに深める | 授業範囲を予習・復習する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 予習はインターネットや飼育書を参考にする。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 必要に応じて随時参考資料等を使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------------|-------------|----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 動物看護演習Ⅱ () | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2年 | 担当教員 | 鈴木莉紗 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 認定動物看護師。動物病院にて動物看護師として勤務後、専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 犬猫を中心に、健康管理や予防法、主にみられる疾患について学ぶ。各検査に必要な手技や機器の使い方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬猫の健康管理や予防法、主な疾患の症状、検査法を理解する。 1年次に学んだことから、各検査の目的や意義を理解し、より正確に検査を行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80%、授業内評価20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|-------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義・演習 | 採血について、検体の取り扱い | 講義範囲の予習、復習 |
| 2 | ／ | 講義 | フィラリア検査について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 3 | ／ | 講義 | レントゲン検査について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 超音波検査について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 5 | ／ | 講義 | [復習] 糞便検査について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 6 | ／ | 講義 | [復習] 尿検査について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 血液検査について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 血液検査について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 血液検査について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 輸液管理について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 輸液管理について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 輸液管理について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 輸血について理解する | 講義範囲の予習、復習 |
| 14 | ／ | 講義 | 試験 | 試験範囲を勉強し、その後見直し |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------------------|-----------------|----|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 動物行動学Ⅱ (Science of Animal Behaviour Ⅱ) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2年 | 担当教員 | 大竹静枝 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 野生ニホンザルと南米の新世界ザルの調査に従事。宮城教育大学ほか動物専門学校での講師歴は33年に及ぶ。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 1)動物園観察会の運営と発表を、2年生独自でおこなう。 2)地球生命の誕生から現在までの道筋を、学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1)動物を扱うプロとして、客対応の技術を身に着ける。 2)地球生命の進化を把握する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ルーブリック評価を採用 1)レポート、テスト40% 2)授業態度 30% 3)出席数 30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------|-------|----------|--------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月15日 | 講義 | 観察会テキストの最終確認 | 観察会口頭原稿の持参 |
| 2 | 4月22日 | 講義 | 観察会口頭原稿の最終確認 | 移動前の問いかけづくり |
| 3 | 5月13日 | 講義 | 観察会テキスト確認と班ごとの役割分担 | 1分間要旨づくり |
| 4 | 5月20日 | 講義 | 地球史：最新の恐竜研究の成果 | 地球史の復習 |
| 5 | 5月27日 | 講義 | 地球史：抱卵し、極地へも進出した恐竜 | 前回の復習 |
| 6 | 6月3日 | 動物園リハーサル | 観察会運営と発表対象の最終確認 | 口頭原稿の暗記 |
| 7 | 6月17日 | 動物園観察会 | 1年生対象の観察会を成功させる | 客の目を見て、話す重要性 |
| 8 | 6月24日 | 動物園観察会 | (目習課題：酸素大発生之谜を知る) | |
| 9 | 7月1日 | 講義 | 観察会反省：各班ごとにまとめ、発表 | |
| 10 | 7月8日 | 講義 | 地球史カンブリア紀の軍拡競争とは？ | 地球史の復習 |
| 11 | 7月22日 | 講義 | 行動観察の基本と、データ解析法 | 前回の復習 |
| 12 | 9月2日 | 講義 | 新生代の幕開け：植物の生存戦略 | 前回の復習 |
| 13 | 9月9日 | 講義 | 共生：林冠で見られる共存 | 前回の復習 |
| 14 | 9月16日 | 施設見学 | 東北大学附属植物園見学 | 課題レポート |
| 15 | ／ | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 映像機器、ボード、資料コピーを使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|-------------|---------|-------|------|
| 科目名 (英) | 動物行動学Ⅱ | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2年 | 担当教員 | 大竹静枝 |
| | (Science of Animal Behaviour Ⅱ) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 後期 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | | | | | 曜日・時限 | |
| 教員の略歴 | 野生ニホンザルと南米の新世界ザルの調査に従事。宮城教育大学ほか動物専門学校での講師歴は33年に及ぶ。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 1)行動観察の総復習と、最新の調査法を知る。 2) 日本および東北の生態系の特徴を知る。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1)行動観察の実際を習得する。 2) ヒトと動物の関係を総合的に捉え、人に伝える力をつける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ルービック評価を採用 1)レポート、テスト40% 2)授業態度 30% 3)出席数 30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------|--------|------|-------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10月7日 | 講義 | 地球史：恐竜絶滅後の覇者とは？ | スピーチバトル準備 |
| 2 | 10月14日 | 講義 | 地球史：哺乳類の適応放散 | スピーチバトル準備 |
| 3 | 10月21日 | 施設見学 | 東北大学総合博物館：専門家による地球史の分析法 | 課題レポート |
| 4 | 10月28日 | 講義 | 森林がサルをうんだ | スピーチバトル準備 |
| 5 | 11月4日 | 講義 | ホモ・サピエンスまでの道筋 | スピーチバトル準備 |
| 6 | 11月11日 | 施設見学 | 地底の柱ミュージアム：2万年前の仙台 | 課題レポート |
| 7 | 11月18日 | 講義 | 日本の野生動物の現状を知る | スピーチバトル準備 |
| 8 | 11月25日 | 講義 | 東北の生態系：落葉広葉樹林の特徴 | スピーチバトル準備 |
| 9 | 12月2日 | 講義 | スリーエム仙台市科学館 | 課題レポート |
| 10 | 12月9日 | 施設見学 | 野生動物調査法の最前線 | スピーチバトル準備 |
| 11 | 12月16日 | 講義 | 行動観察からわかること | スピーチバトル準備 |
| 12 | 12月23日 | 講義 | 今、都会でおきている進化 | これまでの振り返り |
| 13 | 1月13日 | 講義 | 2年間の総復習 | 総復習 |
| 14 | 1月20日 | 試験 | | |
| 15 | ／ | 講義 | ふりかえり | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 映像機器、ボード、資料コピーを使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|------------|------|-----|
| 科目名 (英) | トレーニング概論Ⅴ () | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 三田舞 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 担当犬が得意とする分野の科目を選択して犬に教える 1年生までの総復習 休止(やすめの命令で指導士の姿がみえなくてもその場にとどまれる様に教える | | | | | | |
| 到達目標 | JKCの訓練規定に準じてCD-Is CD- I までできるようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業態度 60% 実技試験 40%をベースに理解度、工夫があるか、コミュニケーション力など総合的に評価する | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-------------|---------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 演習 | 1年生までの総復習 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 2 | / | 演習 | 1年生までの総復習 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 3 | / | 演習 | 1年生までの総復習 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 4 | / | 演習 | 紐なし脚側行進 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 5 | / | 演習 | 紐なし脚側行進 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 6 | / | 演習 | 招呼 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 7 | / | 演習 | 常歩行進中の停座 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 8 | / | 演習 | 常歩行進中の伏臥 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 9 | / | 演習 | 常歩行進中の立止 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 10 | / | 演習 | 選択科目練習 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 11 | / | 演習 | 休止 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 12 | / | 演習 | 選択科目練習 | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 13 | / | 演習 | CD-Is CD- I | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 14 | / | 演習 | CD-Is CD- I | 次回までに指摘された箇所をクリア にしておく |
| 15 | / | 演習 | 今までのまとめ 復習 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|-------------|-------------|-----------|------|----------------------|
| 科目名 (英) | 動物飼育管理 (Animal Keeping Management) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 土曜日 1・2・3 限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物の飼育管理に関する技術や知識を理解し、基本的な管理と取り扱いについて学ぶ | | | | | | | |
| 到達目標 | 動物の基本的な飼育管理ができる 適切な取り扱いができる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 行動観察の方法と記録を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 行動観察に必要な準備ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 予備観察を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 経時記録を行うことができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 目的によるサンプリングができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | 観察データをまとめることができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | 野草の利用を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 野草の採取と同定ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 野草の採取と同定ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 動物の野草採食について考察できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 動物の保定について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 動物の保定について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 保定の実施と技術について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|-----------------|-------------|-----------|------|----------------------|
| 科目名 (英) | 動物飼育管理 (Animal Keeping Management) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 土曜日 1・2・3 限 |
| 教員の略歴 | 1989年～1992年競走馬生産牧場、1992年～1996年乗馬クラブ、1996年～2000年ペットショップ、移動動物園勤務 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 日本における野生動物の保護や現状、展示物作製や人に伝える方法などを学ぶ | | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が仕事に携わる時に、野生動物の知識を持って行動できることを目標とする | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80% 授業態度と参加度:20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 消毒薬の希釈溶液を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | / | 講義 | 飼育動物の牧草採集ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | / | 講義 | 飼育室展示物採集ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | / | 講義 | 外来生物調査を理解できる① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | / | 講義 | 外来生物調査を理解できる② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | / | 講義 | ラムサール条約の意義目的を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | / | 講義 | ベルグマンとアレンの法則について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | / | 講義 | 野生動物の定義が理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | / | 講義 | 日本の野生動物を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | / | 講義 | 野生動物の現状を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | / | 講義 | 野生動物と環境保全を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | / | 講義 | 野生動物の保全に関する法律を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | / | 講義 | 骨格標本作製の基礎を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | / | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | / | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------|-------------|---------|------|-------|
| 科目名 (英) | エキゾチックアニマル・両性爬虫類 () | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 津嶋 一樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | 仙台ECO2016年卒 その後「株東北サファリパーク」入社 2021年8月に本校講師就任 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 1年生で培った動物飼育の技術や知識を用いて、状況に沿った適切な判断能力を培う | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・飼育に加えてトレーニング等の他の授業の成果を取り入れることができる ・日々の飼育に満足せず向上心をもって臨み続けることができる ・計画や目標を自ら定め、それを達成できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価:40% レポート:40% 小テスト:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|----------------|----|-------|------------------------|---------|-------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | ／ | 演習 | 初心に還り確認しながら飼育できる | 復習・レポート | | | |
| 2 | ／ | 〃 | 飼育の方法や手順を理解し、教えることができる | | 〃 | | |
| 3 | ／ | 〃 | 目標を定め、それを達成できる | | 〃 | | |
| 4 | ／ | 〃 | 優先順位を見極めることができる | | 〃 | | |
| 5 | ／ | 〃 | 他の授業の成果を取り入れられる | | 〃 | | |
| 6 | ／ | 〃 | トレーニングや触診の時間を作れる | | 〃 | | |
| 7 | ／ | 〃 | 上記を踏まえ計画を立てられる | | 〃 | | |
| 8 | ／ | 〃 | できないことや苦手を理解できる | | 〃 | | |
| 9 | ／ | 〃 | 己の弱点を対策し克服できる | | 〃 | | |
| 10 | ／ | 〃 | 全体で協力し質を向上できる | | 〃 | | |
| 11 | ／ | 〃 | 飼育の現状に疑問を抱ける | | 〃 | | |
| 12 | ／ | 〃 | 上記を熟考、改善できる | | 〃 | | |
| 13 | ／ | 講義・演習 | 小テスト | | 〃 | | |
| 14 | ／ | 〃 | まとめ | | 〃 | | |
| 15 | ／ | 〃 | 臨機応変な対応ができる | | 〃 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|-------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物園研究Ⅱ (Zoological Garden StudyⅡ) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 阿部敏計 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 後期 金曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 八木山動物公園にて38年間勤務、副園長を務める。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼育技術者の育成 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、出席日数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|----------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 環境エンリッチメントを理解する振り返り1 | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 講義 | 環境エンリッチメントを理解する振り返り2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | | 講義 | 環境エンリッチメントを理解する振り返り3 | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 講義 | 環境エンリッチメントを理解する振り返り4 | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 講義 | 動物園のトレーニングを理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 講義 | 動物園のトレーニングを理解する2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 講義 | ハズバンドリートレーニングを理解する1 | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 講義 | ハズバンドリートレーニングを理解する2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 講義 | 哺乳類の繁殖を理解する1 | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 講義 | 哺乳類の繁殖を理解する2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 講義 | 哺乳類の繁殖を理解する3 | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 講義 | 動物園での飼料選出を理解する1 | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 講義 | 動物園での飼料選出を理解する2 | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 飼育ハンドブック | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|-------------|-------------|-----------|---------------|--------------|
| 科目名 (英) | 動物園研究Ⅱ (Zoological Garden StudyⅡ) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 阿部敏計 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 金曜日 1限 |
| 教員の略歴 | 八木山動物公園にて38年間勤務、副園長を務める。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連施設に関する学習、自身の長年関わってきた経験をもとに実際の現場実状を伝える。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 動物飼育技術者の育成 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、出席日数20% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|--------------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 飼育室の動物へのエンリッチメントが実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 講義 | 飼育室の動物へのエンリッチメントが実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | | 講義 | 飼育室の動物へのエンリッチメントが実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 講義 | 飼育室の動物へのエンリッチメントが実践できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 講義 | トレーニングの多様性を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 講義 | トレーニングの手順を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 講義 | ハズバンダリートレーニングについて説明 | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 講義 | ハズバンダリートレーニングの実践方法を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 講義 | 動物園での繁殖に向けた取り組みについて説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 講義 | 動物園での繁殖に向けた取り組みについて説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 講義 | 動物園での繁殖に向けた取り組みについて説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 講義 | 動物園での飼料選出の条件を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 講義 | 動物園での飼料選出の条件を説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | | 講義 | 誤解答について説明できる | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 飼育ハンドブック | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|----------|-------------|---------|------|-------|
| 科目名 (英) | ショップ演習Ⅱ (Shop Exercise II) | | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 朝比奈理一 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 校内での管理作業の経験を活かし、実際に営業している店舗での水槽維持管理作業、および出張先でのお客様施設における水槽設備管理作業を実施し、水槽維持管理作業の要点について理解する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 生体及び設備内容、水槽内の状況を見ることで管理作業内容の組み立てができる。また水槽の維持管理作業(水槽内清掃及び換水)を行うことができる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価100% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|----------------|----|-------|---|------|-------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | ／ | 演習と講義 | 実店舗での生体及び設備管理作業 ※生体の入荷、調整、水の管理 ※店舗としての運営にかかる接客や 店内清掃ができる | | | |
| 2 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 3 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 4 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 5 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 6 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 7 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 8 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 9 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 10 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 11 | ／ | 演習と講義 | お客様(個人宅)での水槽メンテナンス 作業 | | | |
| 12 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 13 | ／ | 演習と講義 | | | | |
| 14 | ／ | 試験 | | | | |
| 15 | ／ | 講義 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|---------|------|------|
| 科目名 (英) | 繁殖生理学 (Theriogenology) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 関口順子 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | 愛玩動物看護師 大学卒業後犬・猫テーマパーク勤務を経て動物系専門学校教員 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬の繁殖に関わる機能形態・生理を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 繁殖に関わる形態と機能、妊娠・分娩、遺伝学の基礎を理解し、説明することができる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | テスト結果: A…100～80点、B…79～70点、C…69～60点、D…59～0点として評価する。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|----------------|----|------|------------------------------|------|-------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | / | 講義 | 雌雄生殖器の構造・働きについて説明できる | | | |
| 2 | / | 講義 | 性成熟・メスの生理学について説明できる | | | |
| 3 | / | 講義 | 卵巣周期・オスの生理学について説明できる | | | |
| 4 | / | 講義 | 受精と着床、繁殖に関わるホルモン、交配について説明できる | | | |
| 5 | / | 講義 | 妊娠犬の管理について実践できる | | | |
| 6 | / | 講義 | 妊娠検査、出産する時期について説明できる | | | |
| 7 | / | 講義 | 出産の準備、兆候、正常な流れについて説明できる | | | |
| 8 | / | 講義 | 難産、出産後の管理、新生子の身体検査について説明できる | | | |
| 9 | / | 講義 | 断耳・断尾について説明できる | | | |
| 10 | / | 講義 | 血統書について説明できる | | | |
| 11 | / | 講義 | 遺伝と毛色について説明できる | | | |
| 12 | / | 講義 | 繁殖形態と遺伝性疾患について説明できる | | | |
| 13 | / | 講義 | テスト範囲の確認と総復習 | | | |
| 14 | / | 講義 | 試験 | | | |
| 15 | / | 講義 | 試験返却と振り返り・まとめ | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|-------------|-------------|------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | アニマルエデュケーション I (Animal Education I) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 阿部敏計 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 | 前期 水曜日 2・3限 |
| 教員の略歴 | 東北大学農学部畜産学科修士課程修了後、仙台市八木山動物公園勤務、2017年3月に副園長で退職 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連現場で実際に使える技術の習得 | | | | | | | |
| 到達目標 | 座学だけではなく、物作り、実用的な物を自分で考え、計画から実際に制作し、その動物に適した物を作り上げる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業参加態度、出席数 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 1年間の進め方 | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 演習 | 製作物の説明、イメージ作製ができる | 動物特性調査 |
| 3 | | 演習 | 工具の説明、使用法、DVD (ミーヤキ | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 演習 | 群馬サファリパークにて現場、指導を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 演習 | 群馬サファリパークにて現場、指導を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 演習 | DVD (象のハナコ) を理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 15 | | 講義 | 製作物完成、設置ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------|----------|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 科目名 (英) | アニマルエデュケーション I (Animal Education I) | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 阿部敏計 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 120 (8) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 水曜日 2・3限 |
| 教員の略歴 | 東北大学農学部畜産学科修士課程修了後、仙台市八木山動物公園勤務、2017年3月に副園長で退職 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物関連現場で実際に使える技術の習得 | | | | | | | |
| 到達目標 | 座学だけではなく、物作り、実用的な物を自分で考え、計画から実際に制作し、その動物に適した物を作り上げる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業参加態度、出席数 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 演習 | 製作物の説明、イメージ作製ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | | 演習 | 材料の加工ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | | 演習 | 材料の加工、組み立てができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 15 | | 講義 | 製作物完成、設置ができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|----------------------|----------|----------------|-------------|---------|------|---------------------|
| 科目名 (英) | アニマルエデュケーションⅡ (Animal Education Ⅱ) | | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 渋谷睦美 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義 演習 実習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 曜日・時限 金・2限 |
| 教員の略歴 | 1996年4月～2001年10月まであわしまマリンパークに所属し、飼育、ショーやプログラムなどのエデュケイト企画開発・実施、スタッフ教育を行う。2003年からは専門学校において講師を行い現在に至る。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 1年生時に習得した飼育や生物についての知識を人に伝えることにより深い知識とし、水族館飼育員の仕事である、人に伝える方法を実習をもって習得する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムを企画し解説原稿を作成することができる。 ・ナレーション技術(人前で話すにあたって)を理解し課題に合わせた応用ができる。 ・実習を通して、ナレーション技術を習得する。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(0%) 2. 小テスト(0%) 3. レポート(40%) 4. 課題成果(0%) 5. 実地試験(60%) 以上の割合で前期評価とします。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|--|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | オリエンテーション 授業目標と授業内容を理解する | | |
| 2 | ／ | 講義と演習 | 水族館の解説の種類や役割の理解と課題を確認する | | |
| 3 | ／ | 講義と演習 | プログラムデザインの方法の学習と、課題内容からの解説原稿作成する | | |
| 4 | ／ | 講義と演習 | ナレーション技術(姿勢・声)を身につける | | |
| 5 | ／ | 講義と演習 | ナレーション技術(声・言葉)を身につける | | |
| 6 | ／ | 講義と演習 | ナレーション技術(ボディランゲージ・小道具・問いかけ)を身につける | | |
| 7 | ／ | 演習 | 課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(1グループ目発表) | | |
| 8 | ／ | 演習 | 課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(2グループ目発表) | | |
| 9 | ／ | 演習 | 課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(3グループ目発表) | | |
| 10 | ／ | 演習 | 課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(4グループ目発表) | | |
| 11 | ／ | 講義と演習 | 評価集計結果に基づく解説原稿の見直しをする | | |
| 12 | ／ | 演習 | 2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(1グループ目発表) | | |
| 13 | ／ | 演習 | 2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(2グループ目発表) | | |
| 14 | ／ | 演習 | 2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(3グループ目発表) | | |
| 15 | ／ | 演習 | 2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(4グループ目発表) | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 解説原稿を作成するにあたって、1年生時の講義や研修を復習しておく必要があります。また、課題を取り組むにあたり、毎回講義の復習が必要です。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|--|----------|--------------|-------------|---------|------|------|
| 科目名 (英) | アニマルエデュケーションⅡ | | 必修 選択 | 必修選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 渋谷睦美 |
| | Animal Education II | | 授業 形態 | 講義(演習) 実習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | | | | | | | |
| 教員の略歴 | 1996年4月～2001年10月まであわしまマリンパークに所属し、飼育、ショーやプログラムなどのエデュケイト企画開発・実施、スタッフ教育を行う。2003年からは専門学校において講師を行い現在に至る。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 1年生時に習得した飼育や生物についての知識を人に伝えることにより深い知識とし、トレーナーの仕事である、人に伝える方法を実習をもって習得する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムを企画し解説原稿を作成することができる。 ・ナレーション技術(人前で話すにあたって)を理解し課題に合わせた応用ができる。 ・実習を通して、ナレーション技術を習得する。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(0%) 2. 小テスト(0%) 3. レポート(40%) 4. 課題成果(0%) 5. 実地試験(60%) 以上の割合で前期評価とします。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|----------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | オリエンテーション 授業目標と授業内容を理解する | |
| 2 | / | 講義と演習 | 水族館の解説の種類や役割の理解と課題を確認する | |
| 3 | / | 講義と演習 | プログラムデザインの方法の学習と、課題内容からの解説原稿作成する | |
| 4 | / | 講義と演習と実習 | ナレーション技術(姿勢・声)を身につける | |
| 5 | / | 講義と演習と実習 | ナレーション技術(声・言葉)を身につける | |
| 6 | / | 講義と演習と実習 | ナレーション技術(ボディランゲージ・小道具・問いかけ)を身につける | |
| 7 | / | 実習 | 課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(1グループ目発表) | |
| 8 | / | 実習 | 課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(2グループ目発表) | |
| 9 | / | 実習 | 課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(3グループ目発表) | |
| 10 | / | 実習 | 課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(4グループ目発表) | |
| 11 | / | 講義と演習 | 評価集計結果に基づく解説原稿の見直しをする | |
| 12 | / | 実習 | 2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(1グループ目発表) | |
| 13 | / | 実習 | 2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(2グループ目発表) | |
| 14 | / | 実習 | 2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(3グループ目発表) | |
| 15 | / | 実習 | 2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(4グループ目発表) | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 解説原稿を作成するにあたって、1年生時の講義や研修を復習しておく必要があります。また、課題に取り組むにあたり、毎回講義の復習が必要です。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------|-------------|---------|------|------|
| 科目名 (英) | クラフトワークⅢ | 必修 選択 | 必修選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 渡辺尋志 |
| | (craft work Ⅲ) | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | 彫刻家、日本美術家連盟会員、福島県在京美術家協会会員、新制作協会会員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生き物に関わる人間にとって大切なことは観察することそして考えること。 何かを形にするためには対象物を観察し何故この形になったのかを考えることが重要です。 造形する時自分自身の制作物を客観的にとらることの重要性を理解して欲しい。 見出した生態や現在の問題点、それに対しての自分なりの解決策まで考察できる力が付くことを目指したい。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の名称を聞いたただけでおおよその形を描くことができます。 ・鉛筆や色鉛筆など身近な画材の使用法を身につける。 ・モノづくりをすることで中途半端な仕事や作業をせず良い仕上がりに向けて動くことができる。 ・ワークショップ課題としてアドバイスできる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)授業内評価40% 2)作品提出40% 3)作品評価20% ※授業に取り組む姿勢を高評価とし、全ての作品を期限までに提出した者は作品評価が低い場合でもA評価とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|----------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義・演習 | 授業の流れとモノ作りについて | 自己紹介イラスト制作 |
| 2 | | 講義・演習 | 動物イラスト制作 | 描く動物の生態学習 |
| 3 | | 講義・演習 | 動物イラスト制作 | 色鉛筆着色方法の指導 |
| 4 | | 講義・演習 | 動物イラスト制作 | 動物の身体の形の考え方 |
| 5 | | 講義・演習 | 動物イラスト制作 | |
| 6 | | 講義・演習 | アニマルメモキャッチャー制作 | |
| 7 | | 講義・演習 | アニマルメモキャッチャー制作 | ワークショップ課題としての技術独 |
| 8 | | 講義・演習 | アニマルメモキャッチャー制作 | |
| 9 | | 講義・演習 | ポップアップカード | 動物の形の捉え方 |
| 10 | | 講義・演習 | ポップアップカード | ワークショップ課題としての技術独 |
| 11 | | 講義・演習 | 羊毛フェルトの動物制作 | 動物の形の捉え方 |
| 12 | | 講義・演習 | 羊毛フェルトの動物制作 | 色や質感を考える |
| 13 | | 講義・演習 | 羊毛フェルトの動物制作 | ワークショップ課題としての技術独 |
| 14 | | 講義・演習 | 羊毛フェルトの動物制作 | |
| 15 | | 講義・演習 | 羊毛フェルトの動物制作 | |
| 16-30 | | 講義・演習 | FRP作成 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|-----------------------------------|------------------------|----------|----------|-------------|---------|---------------|------|
| 科目名 (英) | 水族館研究 I (Aquarium Study I) | | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 藤田智子 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 曜日・時限 | 通年 |
| 教員の略歴 | 畜産学科卒業後、千葉県鴨川シーワールド入社。海獣飼育員として勤務。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 水族館の目的、社会的機能を考えてみる。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 動物福祉と野生生物保全に配慮した運営に貢献できるようになる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 50% 出席率、その他 50% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------------|----|------|-------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | ガイダンス | テキスト・ノート確認 |
| 2 | / | 講義 | 動物園・水族館とは | テキスト・ノート確認 |
| 3 | / | 講義 | 水族館の歴史 | テキスト・ノート確認 |
| 4 | / | 講義 | 水質管理 | テキスト・ノート確認 |
| 5 | / | 講義 | 水質管理 | テキスト・ノート確認 |
| 6 | / | 講義 | 水族館の展示形態 | テキスト・ノート確認 |
| 7 | / | 講義 | 日本動物園水族館協会 | テキスト・ノート確認 |
| 8 | / | 講義 | 動物園・水族館に関する法令(国内) | テキスト・ノート確認 |
| 9 | / | 講義 | 動物園・水族館に関する法令(国内) | テキスト・ノート確認 |
| 10 | / | 講義 | 動物園・水族館に関する法令(国際) | テキスト・ノート確認 |
| 11 | / | 講義 | 動物園、水族館に係る国際団体 | テキスト・ノート確認 |
| 12 | / | 講義 | ハンドブック 3 | テキスト・ノート確認 |
| 13 | / | まとめ | まとめ | |
| 14 | / | 筆記試験 | 筆記試験 | |
| 15 | / | 振り返り | 振り返り | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 新・飼育ハンドブック1～5 | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|----------|-----------|-------------|---------|------|-------------|
| 科目名 野生動物管理 (英) (Wild Animal Management) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 津嶋 一樹 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 仙台ECO2016年卒 その後「(株)東北サファリパーク」入社 2021年8月に本校講師就任 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 1年生で培った動物飼育の技術や知識を用いて、状況に沿った適切な判断能力を培う | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・飼育に加えトレーニング等の他の授業の成果を取り入れることができる ・日々の飼育に満足せず向上心をもって臨み続けることができる ・計画や目標を自ら定め、それを達成できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価:40% レポート:40% 小テスト:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|------------------------|---------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | 初心に還り確認しながら飼育できる | 復習・レポート | |
| 2 | ／ | 〃 | 飼育の方法や手順を理解し、教えることができる | | 〃 |
| 3 | ／ | 〃 | 目標を定め、それを達成できる | | 〃 |
| 4 | ／ | 〃 | 優先順位を見極めることができる | | 〃 |
| 5 | ／ | 〃 | 他の授業の成果を取り入れられる | | 〃 |
| 6 | ／ | 〃 | トレーニングや触診の時間を作れる | | 〃 |
| 7 | ／ | 〃 | 上記を踏まえ計画を立てられる | | 〃 |
| 8 | ／ | 〃 | できないことや苦手を理解できる | | 〃 |
| 9 | ／ | 〃 | 己の弱点を対策し克服できる | | 〃 |
| 10 | ／ | 〃 | 全体で協力し質を向上できる | | 〃 |
| 11 | ／ | 〃 | 飼育の現状に疑問を抱ける | | 〃 |
| 12 | ／ | 〃 | 上記を熟考、改善できる | | 〃 |
| 13 | ／ | 講義・演習 | 小テスト | | 〃 |
| 14 | ／ | 〃 | まとめ | | 〃 |
| 15 | ／ | 〃 | 臨機応変な対応ができる | | 〃 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | フィールドワークⅡ (Observation and Fieldwork) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 土屋 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 東京タワー水族館飼育員、ひかるアクアリウム小田急店員、サッドアルバーリ及びハナマサ店長、水草輸入Appo工房 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | フィールドに出て、観察力をつける。 その観察力を、展示や飼育に生かせるようにならなければいけない。 フィールドに出る前に、観察の仕方や採集、輸送法を学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | フィールドに出た時に、そこにどんな生物がいるかをわかるようになる。 その生物をどう採集すれば良いかを判断できるようになる。 採集した生物を輸送するためのパッキング等ができるようになる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験90% 出席率10% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|----------------|----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 各地域及び環境による生物の差 | 宮城の自然について調べる |
| 2 | ／ | 講義 | 各地域及び環境による生物の差 | 宮城の自然について調べる |
| 3 | ／ | 講義 | 採集法、法律、輸送法 | 宮城の自然について調べる |
| 4 | ／ | 演習 | フィールド採集(川) | 宮城の自然について調べる |
| 5 | ／ | 講義 | 採集法、フィールドの振り返り | 宮城の自然について調べる |
| 6 | ／ | 講義 | 採集法、フィールドの振り返り | 宮城の自然について調べる |
| 7 | ／ | 講義 | 海での採集法、輸送 | 宮城の自然について調べる |
| 8 | ／ | 講義 | 海での採集法、輸送 | 宮城の自然について調べる |
| 9 | ／ | 演習 | フィールド採集(海) | 宮城の自然について調べる |
| 10 | ／ | 講義 | 採集の振り返り | 宮城の自然について調べる |
| 11 | ／ | 講義 | 採集の振り返り、環境 | 宮城の自然について調べる |
| 12 | ／ | 講義 | 採集の振り返り、環境、反省 | 宮城の自然について調べる |
| 13 | ／ | 演習 | フィールド採集(川) | 宮城の自然について調べる |
| 14 | ／ | 試験 | 筆記試験 | 学習内容について予習し、試験の復習をする |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 講義範囲の予習・復習する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|----------|------|----------------|
| 科目名 (英) | フィールドワークⅡ (Oversation and FieldworkⅡ) | | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 浅岡 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 前・後・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 環境系NPO法人で耕作放棄地の利活用、環境再生活動、自然教育活動およびその指導に携わる | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 校外学習を通して水生生物の生態や生物を取り巻く環境について学ぶ。 野外活動での危険性を知り、自然環境中を含む屋外での安全を意識したイベントを実行できる人材を目指す。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 野外活動での危険把握、安全管理の必要性を理解し、安全確保の上で活動することができるようになる。 水辺での各種活動に必要な道具類の名称と正しい使用法、その管理ができるようになる。 水生生物の最適な観察法や基礎的採捕法を習得することができるようになる。 水辺での各種体験活動において、水生生物の解説ができるようになる。 (こども向けイベント等でやさしい言葉で水生生物の解説ができるようになること) | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験 ← 100段階で判定する 取組状況 ← 毎回の演習への取り組み状況を2段階で判定する 提出物 ← 提出物を4項目(提出期日、正確さ、自律学習度、IT使用)で判定する 筆記試験で50%、取組状況と提出物を合わせて50%、の合計を評価点とする | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|-----------|----------------------------|---------------------------|------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/12 | 講義 | 野外での安全管理・危険について説明できる | 身近な危険、野外での危険について議論する |
| 2 | 4/19 | 講義 | 河川での活動における危険について説明できる | ワークシート |
| 3 | 4/26 | 講義 | 海での活動における危険・危険生物について説明できる | ワークシート |
| 4 | 5/10 | 講義 | タモを使用した基本的採捕法の説明ができる | ワークシート |
| 5 | 5/17 | 演習 | 微小生物を含む小型水生生物の解説ができる | ワークシート |
| 6 | 5/24 | 講義 | 採捕道具(釣り道具)について解説できる | ワークシート |
| 7 | 5/31 | 演習 | 底生魚類・甲殻類の採捕について解説できる | ワークシート |
| 8 | 5/17・5/31 | 課題 | 第5回、第7回の演習における課題 | ワークシート |
| 9 | 6/14 | 講義 | 河川生物(水生昆虫)のホタルについて解説できる | ワークシート |
| 10 | 6/21 | 演習 | ホタルの観賞における留意点について解説できる | ワークシート |
| 11 | 6/28 | 講義 | 湿地での活動について解説できる | ワークシート |
| 12 | 7/5 | 演習 | 干潟生物およびその観察について解説できる | ワークシート |
| 13 | 6/21・7/5 | 課題 | 第10回、第12回の演習における課題 | ワークシート |
| 14 | 7/12 | 講義 | 前期授業のまとめ | 左記学習内容について復習(3時間以上)をする |
| 15-1 | 9/8 | 試験 | 筆記試験 | 前期学習内容について復習(3時間以上)をする |
| 15-2 | 9/13 | 講義 | 振り返り | 試験で間違えた項目について復習をする |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業内で使用するワークシートのノートへの転記がよい。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 演習時に必要なもの 一用箋ハサミ、フィールドノート、フィールドブーツ、フィールドハット、ユニフォーム、タオル、雨具、カメラ、デジタル水温計、釣り具一式 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|-------|-------------|---------|------|-------|
| 科目名 (英) | 鯨類解剖学 (Whale Anatomy) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 鎌田みゆき |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | OMRCIにてドルフィントレーナー、ネイチャーガイドとして勤務 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 飼育現場において、“獣医師に必要とされる”および“獣医師の良きパートナーとして共に仕事ができる”スタッフは重宝される。 動物にとってより良い環境を創っていただけるよう、当科目では専門書、資料画像、動画などを用いた講義を主軸に鯨類の基本的な体の構造と各臓器の生理と働きについて学び、経験談を交えてハズバンダリーでの採血の模倣や解剖における作業など、実践的な練習も行う。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ・陸棲哺乳類とは異なる体のしくみや臓器形態について説明することができる ・就職した際に現場で即戦力となるため、採血での針の刺し方や取り上げでの担当持ち場、解剖でのアシストを行うことができるようになる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト 60% 授業態度(あいさつ、返事、質問、取り組み姿勢) 40% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|----|-------|---|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | ガイダンス 授業内容と目標を理解する | |
| 2 | / | 講義 | 鯨類の骨格について詳細を学び、 標本の作成方法にも触れる | 全身骨格チェック用ワークシート作成 |
| 3 | / | 講義 | 皮膚・被毛・乳腺・寄生虫について理解 する | |
| 4 | / | 講義と演習 | 古・口腔・歯について理解し、飼育鯨類の 口内チェックが実施できるようにな | イルカ口内写真 |
| 5 | / | 講義 | 消化器系(胃)について理解し、 図説ができる | |
| 6 | / | 講義と演習 | 消化器系(腸)について理解し、病理部 分の組織標本の作成を体験する | 豚ホルモン、メス、ハサミ、トレー、 発泡スチロール、虫ピン、医療用手袋 |
| 7 | / | 講義 | 肝臓と分解のしくみについて理解する | |
| 8 | / | 講義 | 胆嚢・膵臓について理解し、糖尿病と 関係づけて説明することができる | |
| 9 | / | 講義 | 腎臓・尿管・膀胱・尿道について理解す る | |
| 10 | / | 講義 | 呼吸器系(鼻腔・咽頭・喉頭)について 理解し、分類することができる | |
| 11 | / | 講義 | 呼吸器系(肺)について理解し、 心臓との関連を説明することができる | |
| 12 | / | 講義 | 循環器系(心臓)について理解し、 循環の流れを説明することができる | |
| 13 | / | 講義 | テスト対策として前期講義の総まとめを 行う | |
| 14 | / | 試験 | 前期テスト | |
| 15 | / | 講義 | ふりかえり | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| JESC動物の体のしくみ、Atlas of the Anatomy of Dolphins and Whales、イルカ解剖学、解剖写真、模型、標本、iphoneコネクター、スクリーン | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 観賞魚研Ⅱ | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 浅岡 |
| | (Ornamental FishⅡ) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | 小型魚類・甲殻類の飼養管理、生体を含めた水槽の設置・貸出・維持管理をおこなう「さかなこねこ」代表 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 水生生物を飼育する上で必要な生体情報について学び、観賞魚の適切な取扱いについて考える。 特に、観賞魚を取り巻く現状(自然に生息する魚と観賞魚との関係、天然記念物と観賞魚の関係など)について、 生物多様性の観点からみる問題を学び、観賞魚の将来のあるべき状態を考える。 観賞魚の展示についての基本を理解し、適切なレイアウトについて考える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 観賞魚について、形態と色彩からその種を区別することができるようになる 観賞魚それぞれの特徴を把握し、概要を説明することができるようになる (こどもたちにも理解できるやさしい言葉で解説することができるようになること) (特に東北における身近な観賞魚ともなる日本産淡水魚について解説できるようになること) 観賞魚における展示の基本用語を解説、および、レイアウトのポイントを説明できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(100段階で採点) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|------|------|-----------------------|------|---------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/12 | 講義 | アクアリウムについて説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 2 | 4/19 | 講義 | 天然魚と観賞魚の現状について説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 3 | 4/26 | 講義 | モツゴ・モロコ類の概要について解説できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 4 | 5/10 | 講義 | タナゴ類の概要について解説できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 5 | 5/17 | 講義 | 淡水性大型二枚貝類について解説できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 6 | 5/24 | 講義 | フナ類および金魚の品種について説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 7 | 5/31 | 講義 | 形態(金魚の尾)について説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 8 | 6/14 | 講義 | 観賞魚の状態を把握し説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 9 | 6/21 | 講義 | ニシキゴイの概要を説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 10 | 6/28 | 講義 | 品評会の意義について説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 11 | 7/5 | 講義 | アクアリウムにおけるレイアウトを説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 12 | 7/12 | 演習 | 流木・岩石について説明できる | | 左記学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 13 | 8/30 | 講義 | 前期授業のまとめ | | 前期学習内容について復習(1.5時間以上)をする |
| 14 | 9/6 | 試験 | 筆記試験 | | 前期学習内容について1.5時間以上の復習をしておく |
| 15 | 9/13 | 講義 | 振り返り | | 試験で間違った内容について3時間以上の復習をする |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|-------|-------------|---------|------|------|
| 科目名 (英) | 水族館研究Ⅱ (Aquarium Study Ⅱ) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 松岡由莉 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 |
| 教員の略歴 | 仙台うみの杜水族館パフォーマンスチームで8年勤務 イルカ・アシカ・猛禽・インコの飼育 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <p><主に1年生を連れての水族館見学・特別講義> 水族館の4つの役割「種の保存」「教育・環境教育」「調査」「研究」を意識して情報を得る。 水族館を楽しむための準備をし、ゲスト(1年生)を連れて見学する。 現役の水族館の飼育員からの特別講義を通して、今後の水族館について考える。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 水族館の4つの役割が、実際の水族館だとどの取り組みに当たるのか知る。 1年生ドルフィンの顔と名前を一致させる。 自分だったら水族館のどの役割に興味があるのか、1つ明確にピックアップする。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 引率をする際のタイムスケジュールの作成、引率をする際の取り組み 50% ワークシート 50% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|-------|------|---|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月13日 | 講義 | 「水族館研究Ⅱ」で行う授業内容ガイダンス | | |
| 2 | 4月20日 | 講義 | 水族館見学のしおり作り | | |
| 3 | 4月25日 | 講義 | 特別講義「命の重みについて」理解ができる | | |
| 4 | 4月25日 | 講義 | 特別講義「命の重みについて」理解ができる | | |
| 5 | 4月27日 | 講義 | 水族館見学のしおり・名札完成、当日の想定ができる | | |
| 6 | 5月8日 | 演習 | 1年生の引率役としてコミュニケーションを取りつつ計画的に水族館の見学ができる | | |
| 7 | 5月8日 | 演習 | 1年生の引率役としてコミュニケーションを取りつつ計画的に水族館の見学ができる | | |
| 8 | 5月8日 | 演習 | 1年生の引率役としてコミュニケーションを取りつつ計画的に水族館の見学ができる | | |
| 9 | 5月8日 | 演習 | 1年生の引率役としてコミュニケーションを取りつつ計画的に水族館の見学ができる | | |
| 10 | 5月18日 | 講義 | 特別講義前事前学習(桂浜水族館) | | |
| 11 | 5月29日 | 講義 | 特別講義(桂浜水族館) | | |
| 12 | 6月22日 | 講義 | 鰭脚類の飼育に関して現在の日本の水族館の課題 | | |
| 13 | 7月6日 | 講義 | トレーナートレーニングに関して理解ができる海外の飼育員の動物との向き合い方について理解ができる | | |
| 14 | 8月28日 | 講義 | 特別講義(美ら海水族館) | | |
| 15 | 8月31日 | 講義 | イルカの繁殖について | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|--|-------------------------|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 海洋保全 (Marine Ecology) | 年次 | 2 | 担当教員 | 岡村洋市 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 昼間I部) | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者 | | | | |
| 授業の学習内容 | 海洋国家・日本と国際社会の基本的なルールを学び、置かれている現状を理解する。また、動物園水族館を博物館法の視点から見つめ調査・研究機関であることも認識する。ワークショップ形式の各術をもって、自ら作成した出来形を完成させる。 | | | | |
| 到達目標 | ①海洋に関する国際的な法規の解釈を理解する。 ②海洋・陸水に関する国内的な法規を理解する。 ③海洋の調査・研究機関でもある博物館機能や国家資格制度について知見を得る。 ④志望する分野の職業に就いたときのために、現状に対する課題解決能力を養う。 | | | | |
| 評価方法と基準 | 記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 :理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価:受講姿勢、発言および出席率を評価) | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|------------|----|------|-------------------|------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 海と人の関わり、産業の発展を知る。 | | 配布資料巻末の「まとめ」を各自復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 海洋の国際条約の解釈を知る。 | | 〃 |
| 3 | ／ | 講義 | 海洋・陸水の国内法令などを知る。 | | 〃 |
| 4 | ／ | 講義 | 種の多様性と外来種問題を知る。 | | 〃 |
| 5 | ／ | 講義 | 博物館法と指定管理者制度を知る。 | | 〃 |
| 6 | ／ | 講義 | 生涯学習とメディアの仕組みを知る。 | | 〃 |
| 7 | ／ | 講義 | 学芸員制度と仕組みを知る。 | | 〃 |
| 8 | ／ | 実習 | 統計分析術を習得できる。 | | |
| 9 | ／ | 実習 | 〃 | | |
| 10 | ／ | 実習 | 資料保存術を習得できる。 | | |
| 11 | ／ | 実習 | 〃 | | |
| 12 | ／ | 実習 | 〃 | | |
| 13 | ／ | 講義 | 各巻末資料の「まとめ」を解説する。 | | |
| 14 | ／ | 試験 | 記述テスト | | |
| 15 | ／ | 講義 | 試験結果の質疑・回答および解説 | | |
| 16 | ／ | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|----------------------|----------|--------------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 海洋生態 (Marine Ecology) | | 必修 選択 | 必修(選択必修・選択等) | 年次 | 2 | 担当教員 | 岡村淳市 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 専門書、水産系教科書などを用いた講義。一部、標本資料や映像などを使用する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 水圏(海洋域・陸水域)に広く分布する魚類以外の水生生物や植物の形態学、系統分類学、生態学を総論と各論で学び、間口の広い理解力を培う。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 記述試験60% 授業内評価40% (授業内容の理解度、解説・文章力を評価) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-----------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 分類の基礎① 種名・学名・和名 | ノートを確認する |
| 2 | ／ | 講義 | 分類の基礎② 命名規約・系統樹 | ノートを確認する |
| 3 | ／ | 講義 | 原生生物・海綿動物の分類・生態 | ノートを確認する |
| 4 | ／ | 講義 | 刺胞動物の分類・生態① | ノートを確認する |
| 5 | ／ | 講義 | 刺胞動物の分類・生態② | ノートを確認する |
| 6 | ／ | 講義 | 有櫛動物などの分類・生態 | ノートを確認する |
| 7 | ／ | 講義 | 軟体動物の分類・生態 | ノートを確認する |
| 8 | ／ | 講義 | 環形動物の分類・生態 | ノートを確認する |
| 9 | ／ | 講義 | 棘皮動物の分類・生態 | ノートを確認する |
| 10 | ／ | 講義 | 節足動物の分類・生態① | ノートを確認する |
| 11 | ／ | 講義 | 節足動物の分類・生態② | ノートを確認する |
| 12 | ／ | 講義 | 脊索動物の分類・生態 | ノートを確認する |
| 13 | ／ | 講義 | まとめ | |
| 14 | ／ | | 記述テスト | |
| 15 | ／ | 講義 | まとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|----------|-----------------|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 海洋生態 (Marine Ecology) | | 必修 選択 | 必修(選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 岡村淳市 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 教員の略歴 | 民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者 | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 専門書、水産系教科書などを用いた講義。 一部、標本資料や映像などを使用する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 水圏(海洋域・陸水域)に広く分布する魚類以外の 水生生物や植物の形態学、系統分類学、生態学を 総論と各論で学び、間口の広い理解力を培う。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 記述試験60% 授業内評価40% (授業内容の理解度、解説・文章力を評価) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|-----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 海洋の成立 海事世界史 | ノートを確認する |
| 2 | ／ | 講義 | 海洋の構成要素① 海流と漂着生物 | ノートを確認する |
| 3 | ／ | 講義 | 海洋の構成要素② 潮汐と地域的特徴 | ノートを確認する |
| 4 | ／ | 講義 | 海洋の構成要素③ 海中の光 | ノートを確認する |
| 5 | ／ | 講義 | 海洋の構成要素④ 栄養塩の影響 | ノートを確認する |
| 6 | ／ | 講義 | 海洋の構成要素⑤ 水温変化の特性 | ノートを確認する |
| 7 | ／ | 講義 | 海洋の構成要素⑥ 塩分濃度の仕組み | ノートを確認する |
| 8 | ／ | 講義 | 海洋の生態系① 主な海棲プランクトン | ノートを確認する |
| 9 | ／ | 講義 | 海洋の生態系②水生生物を生活様式で分類する | ノートを確認する |
| 10 | ／ | 講義 | さまざまな陸水環境① 河川域 | ノートを確認する |
| 11 | ／ | 講義 | さまざまな陸水環境② 湖沼域 | ノートを確認する |
| 12 | ／ | 講義 | さまざまな陸水環境③ 河口域 | ノートを確認する |
| 13 | ／ | 講義 | まとめ | |
| 14 | ／ | | 記述テスト | |
| 15 | ／ | 講義 | まとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | |
|------------|---|-------------|---------|------|----------|
| 科目名 (英) | 資源増殖 | 年次 | 2 | 担当教員 | 岡村洋市 |
| | Aquaculture | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前月3 限 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 昼間I部) | | | | |
| 教員の略歴 | 民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者 | | | | |
| 授業の学習内容 | 水産増養殖および栽培漁業に対する基礎知識を習得した後、実際に水産育種として生産している実例を学習する。合わせて、水産業界での管理運営と商品出荷から消費者へ届くまでの一連の流れを把握し、一次産業就労希望者への一助となる思考と専門的な知識を養う。 | | | | |
| 到達目標 | ①栽培漁業、増養殖のあらましと現状や最新事情について理解を深める。 ②各育種の養殖実例を理解する。 ③生産、出荷、流通という一次産業の流れを俯瞰的に理解する。 | | | | |
| 評価方法と基準 | 記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 :理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価:受講姿勢、発言および出席率を評価) | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|------------|----|------|---------------------|------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 資源調達と回復、栽培漁業の価値を知る。 | | 配布資料巻末の「まとめ」を各自復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 増養殖の沿革、変遷を知る。 | | 〃 |
| 3 | ／ | 講義 | 増養殖の現状と展望を知る。 | | 〃 |
| 4 | ／ | 講義 | 増養殖の種苗生産方法と分類を知る。 | | 〃 |
| 5 | ／ | 講義 | 繁殖誘因の仕組みと人工採卵方法を知る。 | | 〃 |
| 6 | ／ | 講義 | 養殖の生産性を左右する育種選抜を知る。 | | 〃 |
| 7 | ／ | 講義 | 生産効率を向上する雑種強勢を知る。 | | 〃 |
| 8 | ／ | 実習 | 三倍体育種の開発現場を知る。 | | 〃 |
| 9 | ／ | 実習 | 水産教育機関の養殖事例を知る。 | | 〃 |
| 10 | ／ | 講義 | コイ・ニシキゴイの増養殖を知る。 | | 〃 |
| 11 | ／ | 講義 | キンギョの増養殖を知る。 | | 〃 |
| 12 | ／ | 講義 | ウナギの増養殖を知る。 | | 〃 |
| 13 | ／ | 講義 | 各巻末資料の「まとめ」を解説する。 | | 〃 |
| 14 | ／ | 講義 | 記述テスト | | |
| 15 | ／ | 講義 | 試験結果の質疑・回答および解説 | | |
| 16 | ／ | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|--|-------------|----|-------|------------|
| 科目名 (英) | 魚病学 (Fish Pathology) | 年次 | 2 | 担当教員 | 岡村淳市 |
| | | 総時間 (単位) | 30 | 開講区分 | 前月 2,3限 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科 (2年制 昼間 I 部) | | 2 | 曜日・時限 | |
| 教員の略歴 | 民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者 | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾病に対する基礎知識を習得した後、実際に水産施設等で発生する病種を学習する。 合わせて、発生から診断・対処・拡大防止に至る一連の流れを把握する。 初動対応の一助となる思考と専門的な知識を養う。 | | | | |
| 到達目標 | ①感染症の概説、罹患の仕組みを理解する。 ②病種や分類とその特徴が区別できるようになる。 ③有事の際に初動対応が取れるような方策を養う。 | | | | |
| 評価方法と基準 | 記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 : 理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価 : 受講姿勢、発言および出席率を評価) | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|----|-------|----------------------|------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 魚病の種類や流行の仕組みを知る。 | | 配布資料巻末の「まとめ」を各自復習 |
| 2 | / | 講義 | ウィルス病の原因・症状を知る。 | | // |
| 3 | / | 講義 | 細菌病の原因・症状を知る。 | | // |
| 4 | / | 講義 | 寄生虫病の原因・症状を知る。 | | // |
| 5 | / | 講義 | 真菌病の原因・症状を知る。 | | // |
| 6 | / | 講義 | 中毒症、非生物由来の原因・由来を知る。 | | // |
| 7 | / | 講義 | 栄養障害の原因・由来を知る。 | | // |
| 8 | / | 実習 | 水産試験場での防疫指導や疾病対策を知る。 | | // |
| 9 | / | 実習 | 水産教育機関での疾病対策を知る。 | | // |
| 10 | / | 講義 | 持続的養殖生産確保法の解釈を知る。 | | // |
| 11 | / | 講義 | 特定疾病の概要や具体例を知る。 | | // |
| 12 | / | 講義 | 実用化された魚病対策や動向を知る。 | | // |
| 13 | / | 講義 | 各巻末資料の「まとめ」を解説する。 | | |
| 14 | / | 講義 | 記述テスト | | |
| 15 | / | 講義 | 試験結果の質疑・回答および解説 | | |
| 16 | / | | | | |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|------------------------|----------|----------|-------------|---------|------|-------------|
| 科目名 (英) | 生物飼育管理 (Animals and Plants Rearing) | | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 朝比奈理一 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・実習等 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 通年 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | アクアルーム内に設備された水槽設備器具を使用して、実際に生体を飼育しながら生体管理方法、取り扱い方法など必要なスキルを身につける。何度も繰り返し作業を行うことで確実なものとする。状況に合わせ判断・行動できるような能力を身につける。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体の取り扱い方、接し方を学び、長期飼育できる能力を身につける。 ・飼育器具などの設備の仕組みを理解し、適切に運用できるようになる。 ・生体の飼育環境を一から作り上げ、それを維持する能力を身につける。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験60% / 出席率40% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|----|-------|-------------------------------------|------------------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 飼育器具・用品・設備の説明と | 新しく学ぶ(海水用) 機材の名称 | と役割がわかる |
| 2 | ／ | 実習と講義 | 一年次のふりかえり | | |
| 3 | ／ | 実習と講義 | 水槽のレイアウト方とトリミング方法 ※1年次における講義に補足 | | |
| 4 | ／ | 実習と講義 | 海水魚をとりまく世界 ※濾過経路と輸入について理解する | | |
| 5 | ／ | 実習と講義 | 海水水槽メンテナンス管理方法 | | |
| 6 | ／ | 実習と講義 | ※海水水槽の清掃・管理ができる | | |
| 7 | ／ | 実習と講義 | ※人工海水をつくることのできる | | |
| 8 | ／ | 実習と講義 | ライブロックについて ※ライブロックの取り扱い方法と役割が理解で | | |
| 9 | ／ | 実習と講義 | 海水水槽管理の実践 | | |
| 10 | ／ | 実習と講義 | ※水槽の状況を見て、作業内容と組み立てられる | | |
| 11 | ／ | 実習と講義 | ※海水の交換を、海水の作成からできる | | |
| 12 | ／ | 実習と講義 | ※水質検査を行い結果に応じて適した対応ができる | | |
| 13 | ／ | 実習と講義 | | | |
| 14 | ／ | 試験 | 筆記テスト | | |
| 15 | ／ | 講義 | テストの答え合わせ、ふりかえり | | |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|------------------------|----------|----------|-------------|----------|------|-------------|
| 科目名 (英) | 水生生物飼育管理応用 I (Animals and Plants Rearing) | | 必修 選択 | 必修 選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 朝比奈理一 |
| | 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義・実習等 | 総時間 (単位) | 120 8 | 開講区分 | 通年 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | アクアルーム内に設備された水槽設備器具を使用して、実際に生体を飼育しながら生体管理方法、取り扱い方法など必要なスキルを身につける。何度も繰り返し作業を行うことで確実なものとする。状況に合わせ判断・行動できるような能力を身につける。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体の取り扱い方、接し方を学び、長期飼育できる能力を身につける。 ・飼育器具などの設備の仕組みを理解し、適切に運用できるようになる。 ・生体の飼育環境を一から作り上げ、それを維持する能力を身につける。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験60% / 出席率40% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|-------------------------------------|-------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 飼育器具・用品・設備の説明と | 新しく学ぶ(海水用) 機材の名称と役割がわかる |
| 2 | / | 実習と講義 | 一年次のふりかえり | |
| 3 | / | 実習と講義 | 水槽のレイアウト方とトリミング方法 ※1年次における講義に補足 | |
| 4 | / | 実習と講義 | 海水魚をとりまく世界 ※濾過経路と輸入について理解する | |
| 5 | / | 実習と講義 | 海水水槽メンテナンス管理方法 | |
| 6 | / | 実習と講義 | ※海水水槽の清掃・管理ができる | |
| 7 | / | 実習と講義 | ※人工海水をつくることのできる | |
| 8 | / | 実習と講義 | ライブロックについて ※ライブロックの取り扱い方法と役割が理解で | |
| 9 | / | 実習と講義 | 海水水槽管理の実践 | |
| 10 | / | 実習と講義 | ※水槽の状況を見て、作業内容と組み立てられる | |
| 11 | / | 実習と講義 | ※海水の交換を、海水の作成からできる | |
| 12 | / | 実習と講義 | ※水質検査を行い結果に応じて適した対応ができる | |
| 13 | / | 実習と講義 | | |
| 14 | / | 試験 | 筆記テスト | |
| 15 | / | 講義 | テストの答え合わせ、ふりかえり | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|---------|------|-------|
| 科目名 (英) | 水生生物飼育管理応用Ⅱ (Advanced Aquatic Animals and Plants Rearing) | 必修 選択 | 必修選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 朝比奈理一 |
| | | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制Ⅰ部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | アクアルーム内に設備された水槽設備器具を使用して、実際に生体を飼育しながら生体管理方法、取り扱い方法など必要なスキルを身につける。何度も繰り返し作業を行うことで確実なものとする。状況に合わせて判断・行動できるような能力を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体の取り扱い方、接し方を学び、長期飼育できる能力を身につける。 ・飼育器具などの設備の仕組みを理解し、適切に運用できるようになる。 ・生体の飼育環境を一から作り上げ、それを維持する能力を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験60% / 授業内評価40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|-------|--|------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | / | 講義 | 飼育器具・用品・設備の説明と | 新しく学ぶ(海水用)機材の名称と役割がわかる |
| 2 | / | 演習と講義 | 一年次のふりかえり | |
| 3 | / | 演習と講義 | 水槽のレイアウト方とトリミング方法 ※1年次における講義に補足 | |
| 4 | / | 演習と講義 | 海水魚をとりまく世界 ※濾過経路と輸入について理解する | |
| 5 | / | 演習と講義 | 海水水槽メンテナンス管理方法 ※海水水槽の清掃・管理ができる ※人工海水をつくることのできる | |
| 6 | / | 演習と講義 | | |
| 7 | / | 演習と講義 | | |
| 8 | / | 演習と講義 | ライブロックについて ※ライブロックの取り扱い方法と役割が理解で | |
| 9 | / | 演習と講義 | 海水水槽管理の実践 ※水槽の状況を見て、作業内容と組み立てられる ※海水の交換を、海水の作成からできる ※水質検査を行い結果に応じて適した対応ができる | |
| 10 | / | 演習と講義 | | |
| 11 | / | 演習と講義 | | |
| 12 | / | 演習と講義 | | |
| 13 | / | 演習と講義 | | |
| 14 | / | 試験 | 筆記テスト | |
| 15 | / | 講義 | テストの答え合わせ、ふりかえり | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|------|----|
| 科目名 (英) | 卒業研究 (Graduation Study) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 阿部 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制 I 部) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | 大学卒業後、南紀白浜アドベンチャーワールド、アニマルカフェ、八木山動物公園で飼育員として勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | グループごとに自らテーマを設定し、自主的に観察、調査を積み重ね、卒業制作展を主な目標として抄録やポスターの作成、口頭発表の準備を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 水族館や動物園、その他の動植物飼育施設では日々の飼育業務だけでなく、希少な動植物の保護および繁殖、飼育環境の改良、改善のために生態や行動をよく観察し、飼育方法や繁殖方法の確立、より良い飼育環境作りを目指すことも大切な仕事となっており、その重要性は年々高まってきている。その基礎となるのが「研究」という視点、思考であり、自分で調べ考えた事柄を客観的に他者に伝える形にまとめ上げプレゼンテーションする力を身に付ける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価20%、その他80% (研究への取り組み方、目標への到達度、プレゼンテーションのクオリティ) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|----------------------------|---------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 演習 | ガイダンス(「研究とは?」)、テーマの考え方について | 事前に何をしたいか確認 |
| 2 | ／ | 演習 | 企業プロジェクト、企画について(チーム決め) | 籍、インターネットによる研究テーマの模 |
| 3 | ／ | 演習 | 同上 | 同上 |
| 4 | ／ | 演習 | 中間発表① 仮テーマ発表 | パワーポイント |
| 5 | ／ | 演習 | 関連する小論文、ニュースなどグループ発表 | 自主的な飼育作業、フィールド調査など |
| 6 | ／ | 演習 | 同上 | 同上 |
| 7 | ／ | 演習 | 同上 | 同上 |
| 8 | ／ | 演習 | 同上 | 同上 |
| 9 | ／ | 演習 | 中間発表② 経過報告、テーマ再確認 | パワーポイント |
| 10 | ／ | 演習 | 関連する小論文、ニュースなどグループ発表 | 自主的な飼育作業、フィールド調査など |
| 11 | ／ | 演習 | 同上 | 同上 |
| 12 | ／ | 演習 | 同上 | 同上 |
| 13 | ／ | 演習 | 同上 | 同上 |
| 14 | ／ | 演習 | 中間発表③ 経過報告 | パワーポイント |
| 15 | ／ | 演習 | 前期のまとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------------|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 卒業研究 (Graduation Study) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 松岡由莉 |
| | | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 60 4 | 開講区分 | 前期・後期・通 年・集中等 |
| 学科・コース | エコ・コミュニケーション科(2年制I部) | | | | | | |
| 教員の略歴 | 仙台うみの杜水族館パフォーマンスチームで8年勤務 イルカ・アシカ・猛禽・インコの飼育 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 専門的な研究をまとめる目的に、チームで役割分担をして計画的にデータ、情報を集める。 | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業研究の抄録「テーマ」「目的」「方法」を定め、チーム全体で「結果を集める」という状態になっておく。そうするために各自期限を意識し、チームで協力し進めることを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・8/31時点での「テーマ」「目的」「方法」「結果」の評価(各期限を守っているか) 60% ・卒業研究への取り組み姿勢 40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月13日 | | 卒業研究の授業スケジュールに関して理解する | |
| 2 | 4月20日 | | 自身が興味があるものは何なのか考え、自分で調べたいものを決定できる | |
| 3 | 4月27日 | | 同じ方向性の学生が集まり、チームでテーマの案出しができる | |
| 4 | 5月11日 | | 現実的な「方法」かどうか判断し、具体的な「方法」を見える化できる | |
| 5 | 5月18日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 6 | 5月25日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 7 | 6月15日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 8 | 6月15日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 9 | 6月22日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 10 | 6月29日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 11 | 6月29日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 12 | 7月6日 | | 7/13時点での状況を発表できる | |
| 13 | 7月13日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 14 | 8月31日 | | 各チームで決定した「方法」を実践できる | |
| 15 | 9月14日 | | チーム内誰でも現状を把握できている | |
| 16 | / | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |